



清俗紀聞

第四

卷之八	卷之七	卷之六	御帙
婚禮	冠禮	生誕	

77
3316
4



門 7 / 7
號 3316
卷 4

清俗紀聞卷之六

生誕



婦人孕む事あり四月五月月経止まり綿紗後本綿の類を以て一幅長さ
 其人の肥瘦小應し肚帯或は胎帯造り胎帯を以て平日身を安静にして
 勞せし或は重き物を持ち又高き靴を履かざせぬやうにせしむるは
 食事も随分淡薄にして胎肉を豊かに孕む事あるは穩婆一冊收生
 を三日五日間胎帯を按摩せしむ○臨月おしれは草紙襦袢を用意し
 胎帯氣はれぬやうに床の上小褥子を鋪安めて穩婆おしれを擦りせ
 産み際ぬかした穩婆腰を取時刻を考へて力減添産む産後一
 穩婆女小児を取上手足身内を以て竹篋を以て胎衣を切臍帯の切片
 清めて堅く包み包み又胎帯を以て草湯を以て嬰児を

生誕

二

一



早稲田 大學 図書館
冊 35.1 28 巻
藏 書

あつはし、み洗ひ口中み指成入て、瘀血等を洗ひ出、身群をよく拭ひ
綿あらしの指切をぬくは、み上と襦袢みくは、み人の懐中に横みして抱
あえ、産母を産屋み、一み産室、至らむ産室の常の床に上み、左右、褥子成敷
多積か、床中み身群の動ぬ、み安坐せ、先多く、十日或は七日程、平
外せ、め、血暈をぬれ、五、六日、平外せ、みあ、産室み坐して、早速
糯米の粥を吃せ、むを、ら、れ、み多分食せぬ、み毎時、さ、げ、食せ
しむ、糯米粥と多く、一度みして、其後の飯を食せ、三十日の内、魚肉油物を
忌、五、七日の内、姜辛、酸味、忌、み、七日、酸味を少く、げ、吃せ、む、七日、
向、砂糖汁、み、益母草、成、飲、先、毎、血を去る、血暈をぬれ、
湯茶を用ひ、産室み、居、内、老女阿媽の、敷、夜、附、添、産婦の、頭、を、さ
き、指、を、片、せ、ぬ、み、且、風寒、を、受、ぬ、み、み、み、け、ぬ、肉、も、物、群、み、

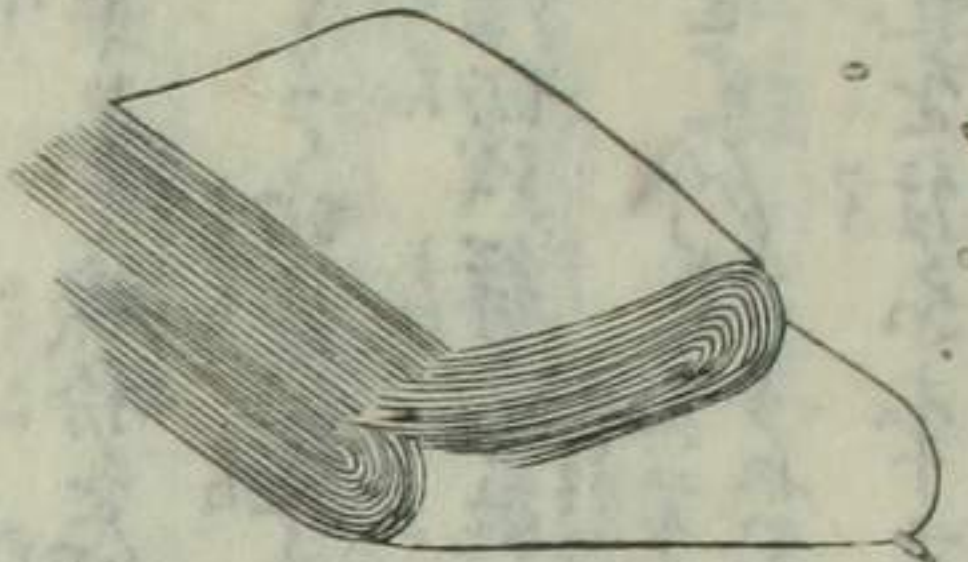
高、あ、び、物、音、の、響、を、成、林、み、先、随、分、産、婦、の、乳、成、群、み、安、寝、保
長、す、み、や、し、に、心、掛、み、み、○、胎、衣、の、少、れ、磁、器、み、入、て、蒸、釜、を、覆、み、包、み、
居、宅、の、内、潔、淨、な、空、地、を、深、さ、三、四、尺、程、み、堀、み、埋、み、並、永、遠、動、さ、ぬ
み、み、み、埋、む、所、の、方、位、並、み、海、物、等、の、幸、な、昔、時、古、儀、を、文、入、
埋、み、説、あ、る、時、程、用、ひ、○、嬰、児、成、洗、せ、ぬ、其、湯、み、食、鹽、を
す、こ、入、り、か、れ、み、少、さ、み、み、入、り、洗、み、血、汚、を、去、み、み、あ、は、
み、あ、し、畢、了、て、臍、粉、を、細、末、み、て、物、身、に、擦、み、襦、袢、み、は、
臍、帯、の、切、り、口、成、指、み、洗、ひ、包、み、胎、み、當、り、外、を、指、切、み、美、又、六
日、多、指、切、成、解、く、乾、不、乾、を、見、て、乾、た、止、む、れ、の、う、縮、み、胎、の、肉、入、る、其
時、指、切、を、み、す、胎、帯、を、切、み、長、さ、み、寸、程、残、し、切、み、若、長、
○、嬰、児、み、乳、を、付、み、事、々、四、時、を、行、く、乳、汁、を、吞、み、一、層、夜、み、
其、あ、つ、ら

生誕

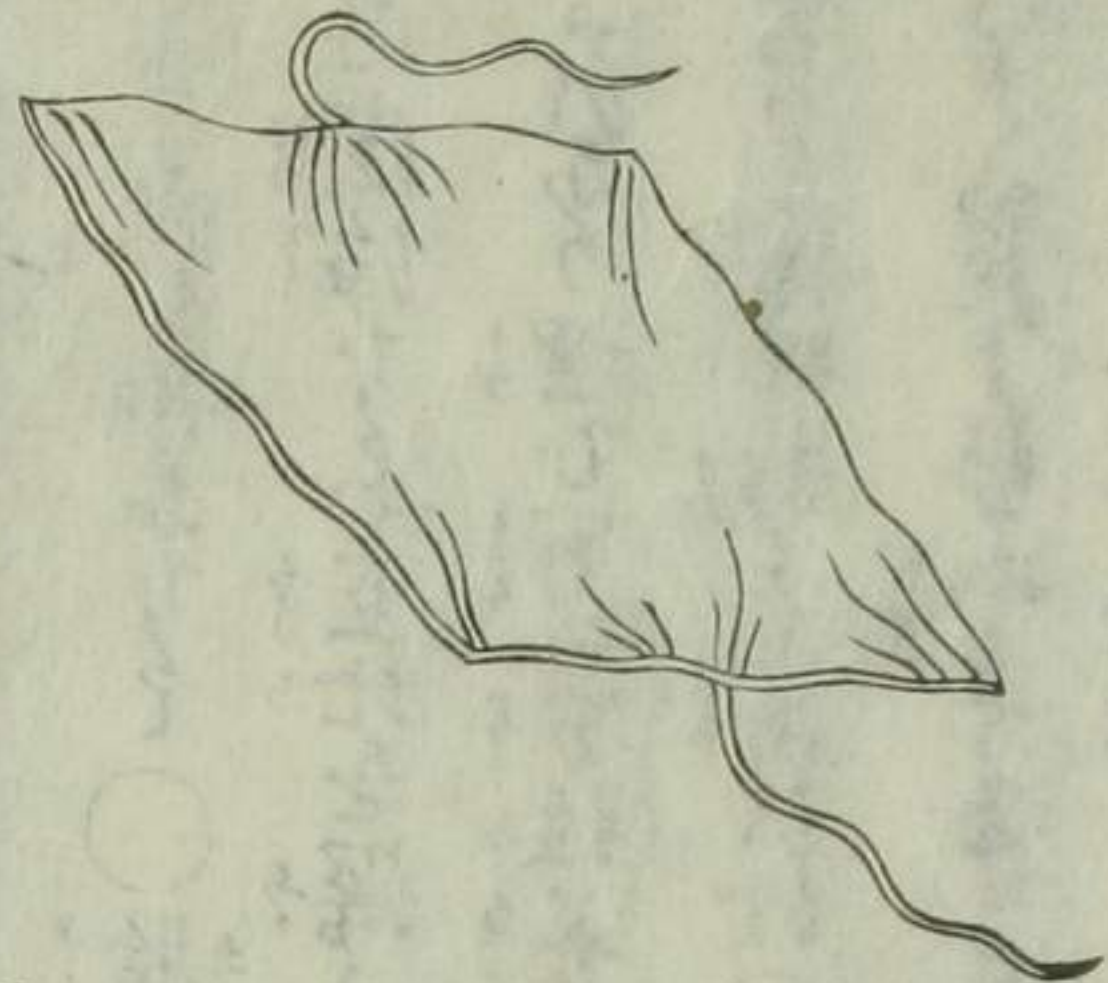


生誕

草紙
クサシ



襦袢
ムツキ



胎衣器
タイイキ



肚帯
タビ





牛黄黄連湯ニウワウワンレントウや瓜香ウリカウをあらひハ葡萄大棗ブドウダイサウを搗碎ツキカして黄ワウを吞ノむ
 胎毒タイドク去クふ胎毒タイドク少シウき少シウき牛黄ニウワウを用ヨウひす乳チの母ハハの乳汁チヂ出デす乳チをのら
 ひ差サ出デす乳チの親族チンケツの婦女ニョメに乳チを用ヨウひす
 餅ホウを焼ヤクり祝イハヒひそ糸イトを湯餅會トウヒンカイとふ
 男子ナンシの名ナめら阿福アホク阿壽アジュ官哥カンカをよヨく吉利字眼キリイジヤンを用ヨウひ
 文字モンジとふ女メ々惣ソウして幼名コナメ付ツケけ十四シヨウ八ハチ歳サイ申マカるルと持モチ儀ギをシめル或アルと
 書カキすルとよクくルかハめノ字ジを命イナとシまシるルと其ソノ外ソトとシて一イチ娘ニョウ二ニ娘ニョウ大
 姐シシ二ニ姐シシと呼ヨぶル物モノ願ネガひシ一イチ娘ニョウ又マタ大ダイ姐シシとシて二ニ女メ或アル二ニ娘ニョウとシて娘ニョウハハ婦フ女メをシらシて稱ナヅケの俗ソク語ゴ
 嫁カして後ノチ々々幸サイ家ケの姓セイ代ダイ唱ナヅケたルと王オウ氏シをシらシて王オウ娘ニョウと稱ナヅケ張チヤウ氏シとシて
 は張チヤウ娘ニョウと稱ナヅケ以ヨリ餘リ々々乞キみ準スび一イチ生シヤウ名ナ字ジ或アル用ヨウひシぬルと多タく此コノ湯餅會トウヒンカイ
 の日ヒに嬰オウ兒ニみ湯浴トウヨクをシて袖ソドのはハぬルと衣カ履リ或アル着キるル親チン族ケツ

註

四

み葉肉にて祝儀此酒宴成形す親友より鷄鴨の卵を赤く漆三ツ或は
五ツ折るか主家より卵形にみ備成形す産前衣振等も親友
より送るとも三朝まで行われ事なり
二十日同成満月一ハ弥月 此日男女ともに胎髪を剃り湯浴せし免
壽星シラスンブラス 壽星菩薩の寺院に安弟結せ免家肉に客成結
祝宴をす胎髪を剃りて免葉菜成口津に噛碎し細
末小く小児の頭小搦りて杏仁薄荷を用ふて胎髪を
残らば押かて免色の糸成とて結ひて小児の寝に帳内掛置
百日目み又客成請いしを満月百日祝ひの節客方より
鞋襪肚兜衣服等成形す親類朋友より魚肉或は鞋襪
等此品成送て祝儀を用ひす

○周歲一ハ月 嬰兒の長成を考ふて廳上み卓成設け上み檀香
數筆墨書籍金銀筆盤等成形す之を嬰兒見させしむ
を布に文章に達し書籍成を布に高堂成さしむ類のよ
儒学成刻由み金銀筆盤を布に高堂成さしむ類のよ此日
親友を請り祝宴成形親友よりこれらとの満月の時み家
胎髪を剃り別を免又婦人のく髪類の隙頭れ中程を免
の中み髪を剃り免と成りて免葉菜を剃り免葉菜の
上條より髪を残し端角成形す免葉菜を剃り免葉菜の
く女子ら類の髪を剃り免葉菜を剃り免葉菜の
かろて披髪を剃り免葉菜の髪を剃り免葉菜の髪を剃り
切免の中み包搭 免葉菜の髪を剃り免葉菜の髪を剃り
五

周歲拿周圖



養ひ包頭を用也 包頭と申す包搭りなり 雲髻成りけ金銀珠寶の香を
 用也髻を人々好むありて等かば香油を用ひて髪の色を潤せ老年に
 ねむく冬寒れ時と法然巾着の帽子を用ひてあはれ惣じて男女大
 小誕生して周歲まで襦ひをぬき其後の年々誕生日襦ひをぬき十
 歳おぬき誕生日襦ひに精意をなす事いふは後十年毎に誕生日襦
 宴をぬき ○女子はねむく七八歳にたれば纏脚布 足を包む をぬき足は
 先を固く巻くもははるゝ足は足の大きからぬやむす事一寸の指
 七八歳已しハ高きお外へ出れば遠路へ行ぬらねむく轎を用ひて歩かせぬ
 必道所歩けの道と婢の類はねむく手代推しをた下賤小戸の屋を奉
 事もねむく歩け自由をた 此女子は足を包む事何止の代と云
 ○ 嬰兒の枕を外を木綿ぬき造り内ぬき敷物ありハ菊丸等清涼の

物を入用也物を入用也代代小豆小豆成成小児小児の腹の腹成成押押居居るる此此事事形形小児小児と都と都
 多多周周歳歳の頃の頃すすはは横横抱抱くくはは抱抱くく事事をを忌忌むむ又又七七日日
 後後をを多多くく下下にに褥褥子子をを鋪鋪安安寝寝せせむむ ○○ 穩穩波波のの謝謝儀儀のの銀銀三三様様目目又
 拾拾目目或或はは百百目目身身分分をを慮慮してして等等かかはは大大戸戸とと衣衣振振振振足足等等成成送送るるもも有有
 都都てて産産のの時時醫醫師師成成扱扱れれ服服茶茶すすふふ事事ふふ産産茶茶産産後後とともも化化病病
 ちちそれそれのの醫醫師師をを用用ひひてて差差血血暈暈ああらら或或はは難難産産等等ゆゆてて産産後後時時にに
 醫醫師師をを扱扱くくはは血血暈暈發發してして醫醫師師同同みみああららすす左左右右ありありはは跌跌のの物物
 をを火火にに燒燒てて磁磁器器にに醋醋をを入入産産婦婦のの鼻鼻にに下下りりてて燒燒たたるる石石炭炭物物のの類類をを
 醋醋にに入入嗅嗅せせしし醒醒覺覺せせむむ又又産産後後時時にに童童便便一一盞盞 天天目目一一盞盞 用用ひひ飲飲しし
 ひひふふもも血血暈暈成成治治とと ○○ 産産繩繩のの類類ああららびび小小児児にに影影守守札札ああららびび産産
 墓墓目目等等れれ事事形形 ○○ 昔昔附附のの襦襦袢袢をを男男子子のの父父のの舊舊衣衣女女子子のの母母のの衣衣

雲髻



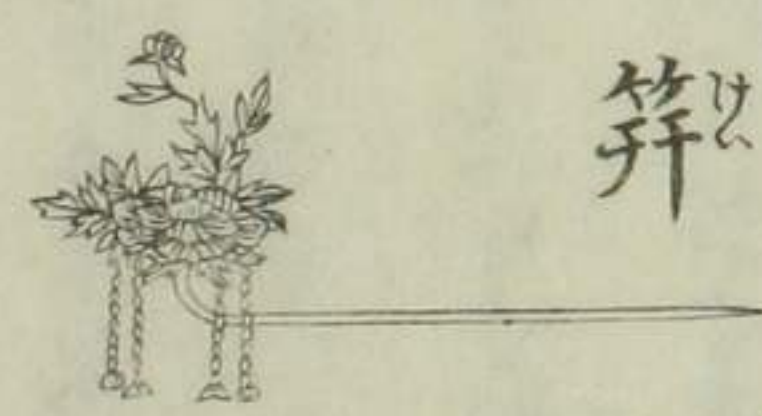
戴包頭圖



簪



筭



全



包頭



生誕

七

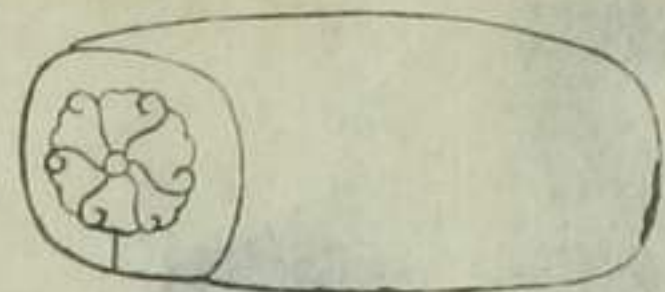
纏脚布



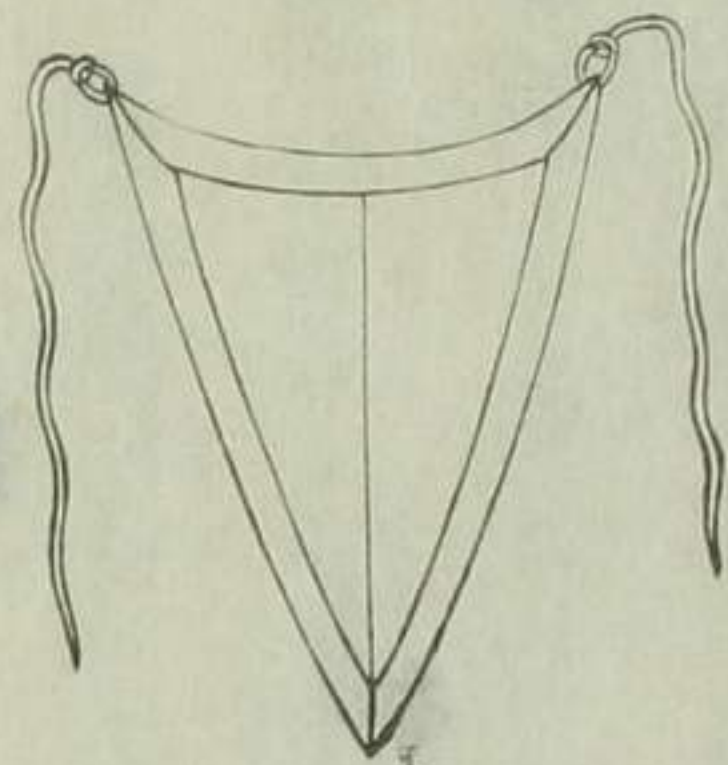
同上



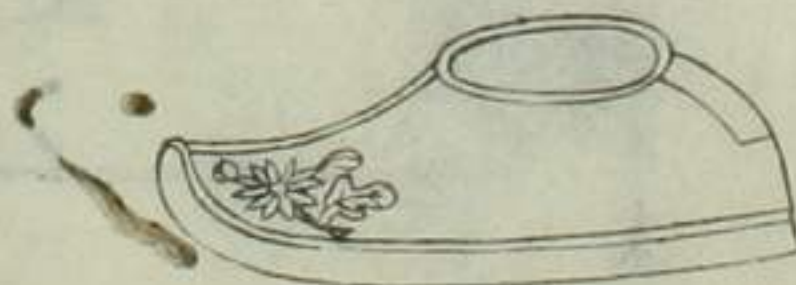
布枕



浩然巾



女鞋



衣代用巾が親あり高附初より好ふ事なり

○子誕生の後母此乳あり付と乳母を一冊養育抱入居り吃乳給む

子又六歳母此乳代吃其ふ以母を二冊養育抱入居り吃乳給む

長成の後官にはく飲或は家無昌一冊養育其乳母の子孫を三冊養育倚靠

其べきとのあれを呼れり一生を以居事あり其解ハ多く又六歳

限り母とて啼らむ辛工を九ヶ月銀三拾目或は拾目不どに多

未ふ者ら衣扱行李等之自身備辨以差紳村とる或は賤し者成

抱入母を一月七八日拾五程かり其日の衣服等も多給り給給以

故ありして一生抱入切ありいれ給り人母嫁せし類の事なり

生誕

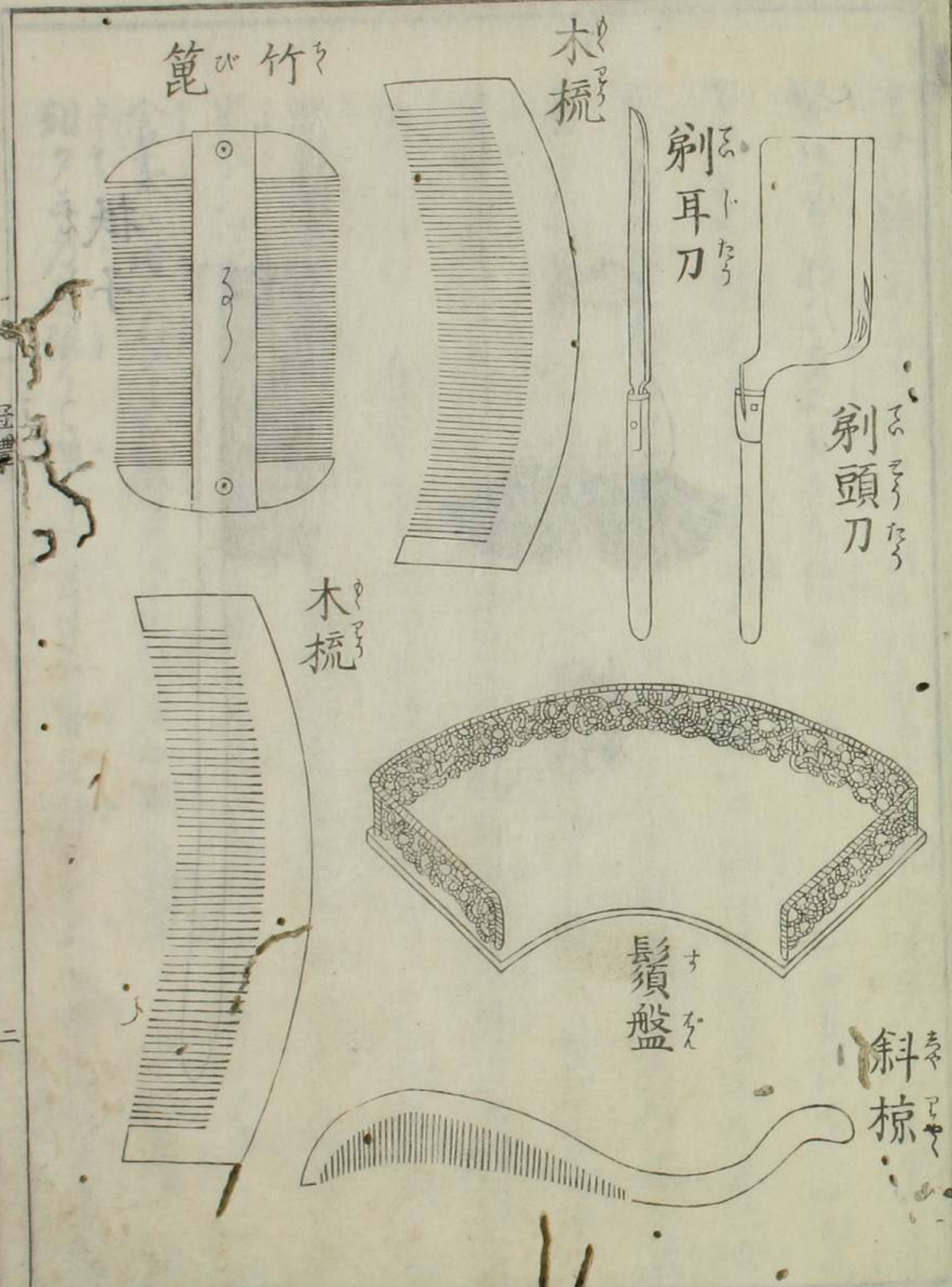
清俗紀聞卷之六

清俗紀聞卷之七

冠禮

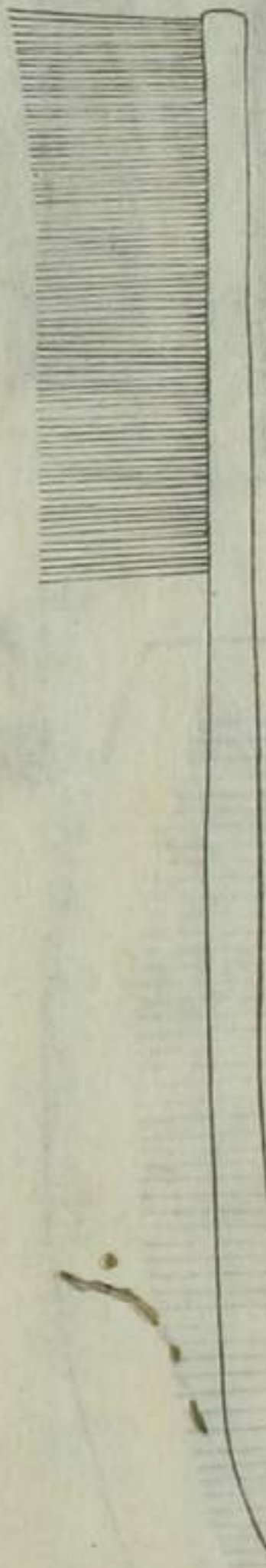
○今清の代冠禮は古式絶く傳はれ奉形一男子歳歳少て加冠せしむ
 定免も勿く十二日某の内恰好見あり髪を束ふし髪賀する事あり
 女子も歳歳少く笄すや古式如く十歳以上にて許嫁す止ら直り
 上筭は此日祝賀あふ上筭を祝はるは許嫁成祝すふ心也
 酒宴を設く ○男子は三日某より頭の中程髪を生し総角は結ひ
 わらひ髪を束ふ方へ髪を結ひ総角を二つみ結ひあふも髪を束ふ
 利く花帽を戴き十二日某みなら天徳月徳等祝言日成る元
 服は ○元振は而も廳堂あふい房中ゆく利髪人を呼ぶ侍僕み
 命して面盆湯洗せしむ其髪を掃子に束は利髪人湯洗く頭

冠禮



在志先、（？）中に髪伐を、（？）其餘を、（？）残らば、（？）剃らば、（？）て、（？）其亦、（？）此髪を、（？）木
 梳を以て梳し、竹篦も、（？）垢伐を、（？）能搦へ、（？）三つ、（？）辨分け、（？）打立、（？）髪を、（？）辯子に
 不（？）周羅、（？）髪を、（？）先を、（？）紅、（？）黄の、（？）糸、（？）糸、（？）田、（？）帽子、（？）を着、（？）二十、（？）年、（？）余、（？）に
 月、（？）此、（？）花、（？）色、（？）黒、（？）等、（？）此、（？）糸、（？）用、（？）白、（？）帽子、（？）を、（？）左、（？）宿、（？）の時、（？）睡、（？）帽、（？）を着、（？）外、（？）出、（？）れ
 節、（？）大、（？）帽子、（？）伐、（？）着、（？）元、（？）振、（？）の日、（？）と、（？）毛、（？）親、（？）髪、（？）伐、（？）招、（？）清、（？）と、（？）後、（？）賀、（？）等、（？）此、（？）事、（？）れ、（？）
 都、（？）剃、（？）髪、（？）人、（？）と、（？）不、（？）下、（？）賤、（？）の、（？）者、（？）と、（？）剃、（？）髪、（？）梳、（？）匠、（？）を、（？）多、（？）伐、（？）清、（？）と、（？）守、（？）一、（？）人、（？）と、（？）
 の、（？）賃、（？）錢、（？）六、（？）十、（？）文、（？）甚、（？）附、（？）く、（？）以、（？）不、（？）元、（？）振、（？）此、（？）節、（？）初、（？）く、（？）呼、（？）ぶ、（？）と、（？）此、（？）百、（？）文、（？）も、（？）甚、（？）以、（？）小、（？）児、（？）の内、（？）に
 剃、（？）髪、（？）人、（？）を、（？）呼、（？）び、（？）及、（？）以、（？）多、（？）家、（？）内、（？）の、（？）奴、（？）婢、（？）此、（？）類、（？）命、（？）と、（？）剃、（？）ら、（？）む、（？）元、（？）一、（？）月、（？）も、（？）甚、（？）以、（？）三、（？）人、（？）程、（？）も、（？）拍、（？）へ、（？）下、（？）賤、（？）の、（？）者
 毛、（？）剃、（？）梳、（？）す、（？）の、（？）毛、（？）剃、（？）頭、（？）店、（？）あ、（？）る、（？）家、（？）内、（？）も、（？）帮、（？）手、（？）を、（？）あ、（？）三、（？）人、（？）程、（？）も、（？）拍、（？）へ、（？）下、（？）賤、（？）の、（？）者
 行、（？）く、（？）剃、（？）梳、（？）せ、（？）む、（？）此、（？）百、（？）文、（？）も、（？）遺、（？）以、（？）一、（？）定、（？）した、（？）事、（？）な、（？）し、（？）
（？）

抵子



油刷



○女子の顔のあり或は人のくほ色を少一胎髪を残し口又黒く髪を
 髪残し髪ひき又足先を指ぬき赤びく包むは足先をさぬ為
 たり先を纏足さふ十葉頃より披髪とて顔際れ髪の色を又六歩
 ぐらわぬ切髪はさむればかゝり包搭とて顔際れ巾の中形物に載
 き十二三葉になりて髪残すは昔の菜油を用ひて髪の色を潤
 雲髪は成はき包路くは髪包のさく物を用ひ許嫁すは聘納を
 後吉日成えく顔髪生際眉毛等成利付并をさくむ先を上并と云
 親類朋友等成請して酒宴を設け祝賀す女の髪ハ婢命とて梳らむ
 男子三に葉になりて自身食事等分頃みまれの母の子元を産くま
 合事の時右の子に箸成り方の子ハ碗を持正しく合事等事を教
 朝夕三夜を限りて櫻の合事等事を許さば父と諸礼儀の道親

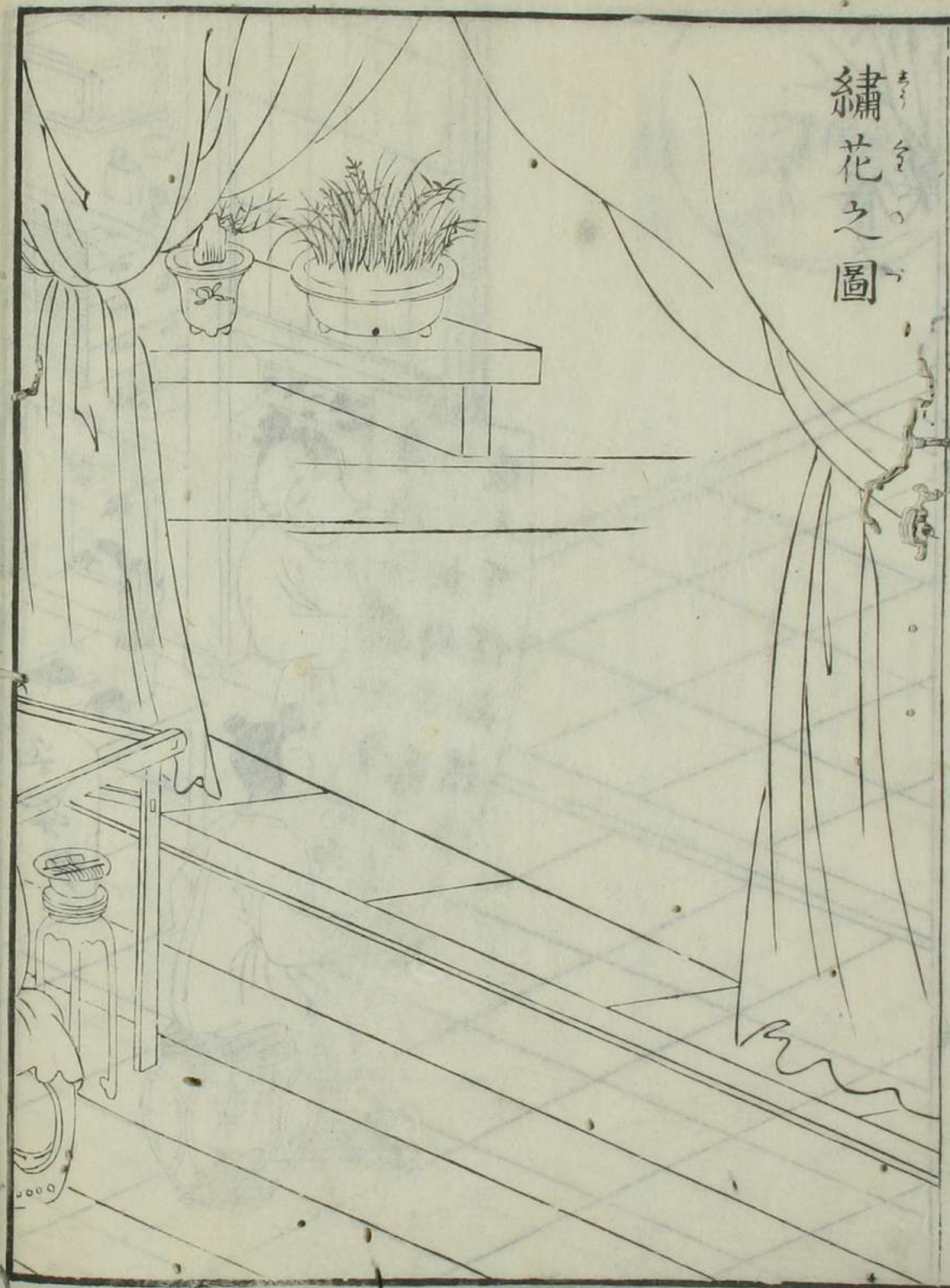
冠禮

類等此來の所作（編）を組擲を不先（又）手（撰）と同一（好）を組（）す。叩首
等此作法長者ゆ下り兄弟と争を以睦ふも其道をたし又此來より止り
士ら勿論農工商も之も讀書寫字を習せ七八歳にたれば身成たさ之
行ひを以り先祖成大切なり徳家成真に道成ひきりせ身上福有られ
を先生を宿許し請ふ至る貧窮なる者も義學に就けり中通り學
學館にありし詩書の義をわたりし詩成賦一文を作ら事を習ふを
進退應對の法成式を專ら教導し若修め之為發行ひたりあはけ
ありひの比又之を擲して戒し先正一再びする事を許さるゆゆも
虚言成種多射弓騎馬算盤等此事の共々々の好も亦よく習言成
女子の事母の手もやも成るる令事等の儀法成たゆふ事男子に
習ら事形し又六歳にたれば起居の行儀法成を教へ擲りしはけりき

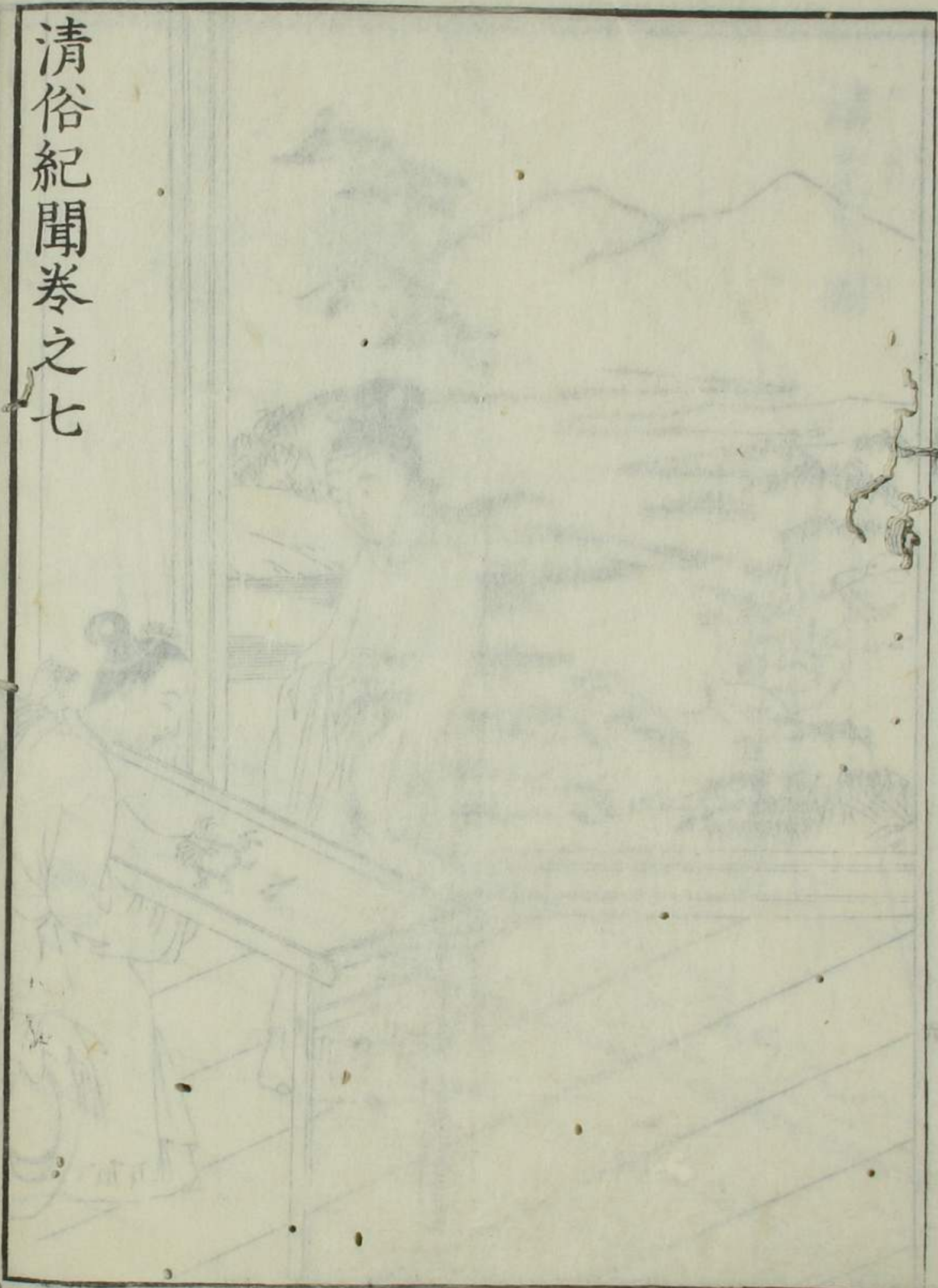
た中成の師先之を成るるゆゆかめ成すゆゆに擲事をかし十歳にたれば
且六歳花針工紡織の道を教導し大に止り衣履も之を縫匹を成
て仕立糸以唯賃包烟包等成邊事をわらも亦其程にゆゆて衣
履の仕立も之をわらり若母親繡花等此道を成せされ近隣の婦人
を請へありしに繡娘（繡花を成せし者）たる婦人ありたしその類の人を以成るるゆゆむ又七
歳の頃より女先生成煩しと寫字の勿論讀書詩仙等を教ふるも亦
十三歳にたれば閨門をわらり人見ゆ事をも亦成るるゆゆ
各部屋成樓上も捲り人門を構へ出入成歳にたれば年頃もたれば男女同
席せ成者焼此事の其自然にきりせし詩文成りゆふ事なり



總角
花帽
辦子



清俗紀聞卷之七



清俗紀聞卷之八

婚禮

凡男子二十歳餘ニ其父兄婦成聚ニ何方の處方を貰ふとするニ其
意ニも家内より易人ヲを招き説親トを媒人トの方ニみまると主人ニ面儀行
乃チ中入止ニ主人外廳ニ出迎セ先生勞加ニ有見教ト互ニみ寒温ヲを
主人ニ請坐トハ客有坐ト答辭儀ヲて椅子ニみかると令愛ヲ何
の子息ト嫁ト世ニひた越某成ト作伐ヲせむと之ノ女家ノ主人ニ某ト不
才ノ小女ト箕箒ニ備ふニみたるニはちてテ辭退ノ色ヲり媒人ト押テ中ニ入れ
けニ父祖伯叔トも相候ト返答ヲ返すニて媒成ト返すニ又ニ席ニ座ニか
父祖伯叔ト列座ニもく領帯ヲ返答ヲするニあり或ハ其ノ后ニ主人ニ媒ノかされ
ゆニ返答ヲするニ事トあり父祖ト伯叔トの肉ヲり應對ヲふなり又

婚禮

父祖伯叔

爲つて入龜の者あり外廳ウイゴに坐せらるる子直チナ内廳ウイゴ後軒ウイゴに
 應對オウゴウ以男女幼穉ウイゴの時トキを聘定ヒンテイ又訂婚テイコンせらるる者あり十四五歳シヨウニシありて説親セツシンを
 亦も何れ幼穉ウイゴに聘定ヒンテイせらるる者あり未嘗ウイゴ做親サシユ已ハ不レ知ル死シ事コトは
 相互オウゴウ必ズ定式テイシキの喪服モウフクを着キ喪次モウジはとむ定式テイシキの喪期モウキにて女メを再嫁サイカせしむる
 男オトハ男家オトノケ内ウチに於テて男家オトノケ異議イギありれば再嫁サイカせしむる先マを再醮サイシヨウと云ハ若
 男家オトノケより一旦トシ貫クひたる事コトありて是レ非贅婿ヒシキ婿ムコを入ルて妻ハと云ハ一人ヒトは
 女家メノケ異議イギありしめしむる成長セイメイの上ウヘに幼穉ウイゴの通ツり男家オトノケ遺ツ以テ女
 死シする時トキハ喪期モウキ畢ハつて其ノ女メの妹イモありし妹イモ代ト替ヘひ若相ニシ應ゲの妹イモありし
 外ウチに縁ヰ於テ物モノ々々婚コンを結ムぶ小使オウシ人ヒトハ街長キヤウヂヤウ小使オウシ官クワン使シハ長官チヤウヂヤウ
 届ツケる事コトなり○媒人ムイジンハ一ヒト水スイ又マ中人ヂウジン親類シンレイ又マ朋友トウバウかとの内ウチに女家メノケに
 熟ジュク習シヨウの者モノ或ハ女家メノケ出入シュツニュウの輕カウ兄ケイ阿媽アマ收ウケ生シヨウ婆ハ一名ヒトナヒ穩ウヘ婆ハあつて之ノを
 者モノ代ト類レと内分ウチノリに入ルる或ハ何方ナニノカタに幾ナン歳サイ位イの娘ムスメあり世セ方の嫁ユメに
 世セにハるはくくやあつて内ウチに女房メノボなり阿媽アマかといふと云ハ入ルる者モノあり
 此コノ下シタ媒ムイ人ジンありくく入ルて親類シンレイ朋友トウバウありの内ウチに表向ウラツキの妹イモ代ト類レを改カむ女メに
 方カタに世セにハるはくく媒ムイ人ジン女メの方カタに返事ウケコタヘを承ウケり男オトの方カタに返答ウケコタヘを待マた
 男オトの方カタに酒サケ肴ヤクあり用意ヨウイして食クハ應オウせし事コトあり又マ別ベツ限ゲンに吉日キツジツ
 を撰シび招請シヨウキンせし事コトあり女メの方カタも同ドウじ
 雛ムスメ方カタ允諾インダクの上ウヘに二三日ニニシツクニニツクと経ケルる吉日キツジツを撰シび
 を遣ツクはせ此時コノトキに兼カミて女メの方カタに送ツクはせ小コに錫シヤク籠カゴに入ルて殺ス拾シヨウ籠カゴ百ヒャク
 確カク徑キヤウの不同フツコウあり送ツクはせ茶チヤと云ハて先マに授シユ茶チヤと云ハ
 是レ故ユに古コの人ヒト婚コン成テイ結ケツぶに茶チヤを用ヒいて
 獲ウケる事コトあり茶チヤと云ハて遣ツクはせ人ヒトを
 書翰シヤカン并ナヒ茶チヤ代ト送ツクはせ小コに奴ヌ婢ビをハ使シつて遣ツクはせ或ハ媒ムイ人ジンを相カウを遣ツクはせ
 婚コン成テイ

者モノ代ト類レと内分ウチノリに入ルる或ハ何方ナニノカタに幾ナン歳サイ位イの娘ムスメあり世セ方の嫁ユメに
 世セにハるはくくやあつて内ウチに女房メノボなり阿媽アマかといふと云ハ入ルる者モノあり
 此コノ下シタ媒ムイ人ジンありくく入ルて親類シンレイ朋友トウバウありの内ウチに表向ウラツキの妹イモ代ト類レを改カむ女メに
 方カタに世セにハるはくく媒ムイ人ジン女メの方カタに返事ウケコタヘを承ウケり男オトの方カタに返答ウケコタヘを待マた
 男オトの方カタに酒サケ肴ヤクあり用意ヨウイして食クハ應オウせし事コトあり又マ別ベツ限ゲンに吉日キツジツ
 を撰シび招請シヨウキンせし事コトあり女メの方カタも同ドウじ
 雛ムスメ方カタ允諾インダクの上ウヘに二三日ニニシツクニニツクと経ケルる吉日キツジツを撰シび
 を遣ツクはせ此時コノトキに兼カミて女メの方カタに送ツクはせ小コに錫シヤク籠カゴに入ルて殺ス拾シヨウ籠カゴ百ヒャク
 確カク徑キヤウの不同フツコウあり送ツクはせ茶チヤと云ハて先マに授シユ茶チヤと云ハ
 是レ故ユに古コの人ヒト婚コン成テイ結ケツぶに茶チヤを用ヒいて
 獲ウケる事コトあり茶チヤと云ハて遣ツクはせ人ヒトを
 書翰シヤカン并ナヒ茶チヤ代ト送ツクはせ小コに奴ヌ婢ビをハ使シつて遣ツクはせ或ハ媒ムイ人ジンを相カウを遣ツクはせ
 婚コン成テイ

婚成

式家女翰書

式家男翰書

台命

謹遵

某某郡年家泰姻弟某姓名端肅頓首拜

婚札

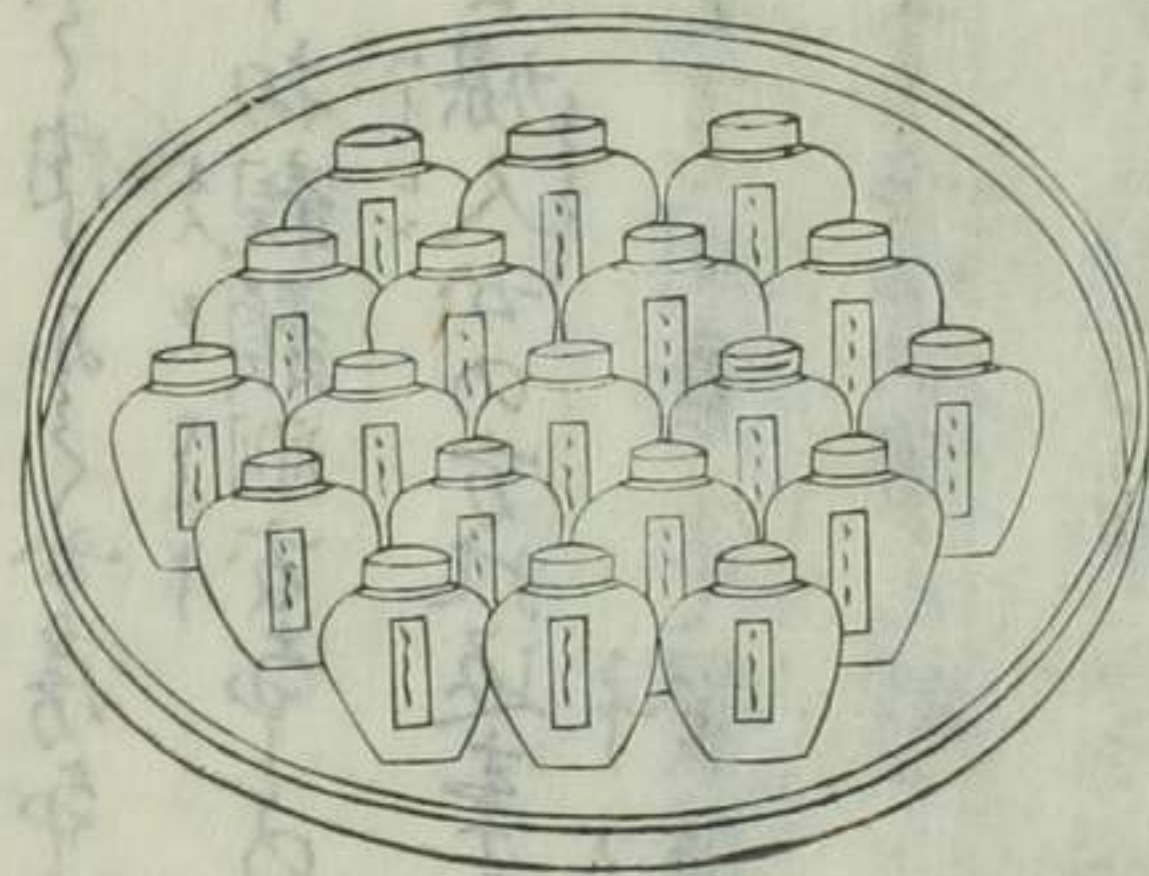
台允

恭求

某某郡年家泰姻弟某姓名端肅頓首拜

初訂婚禮帖式用梅紅全帖恭求台允四字用金銀寫
父或族長出名

茶授



此駕籠を籠みたるは初来也女の方には有る人在麼請教之申入
取次の奴僕等右の書翰を受取申す返翰を徳め取次の者より右の
人より達申す主人書翰を受取申す返翰を徳め取次の者より右の
使の者より達申す媒人より主人對面也

式_二面_一正_二筒_一封_二

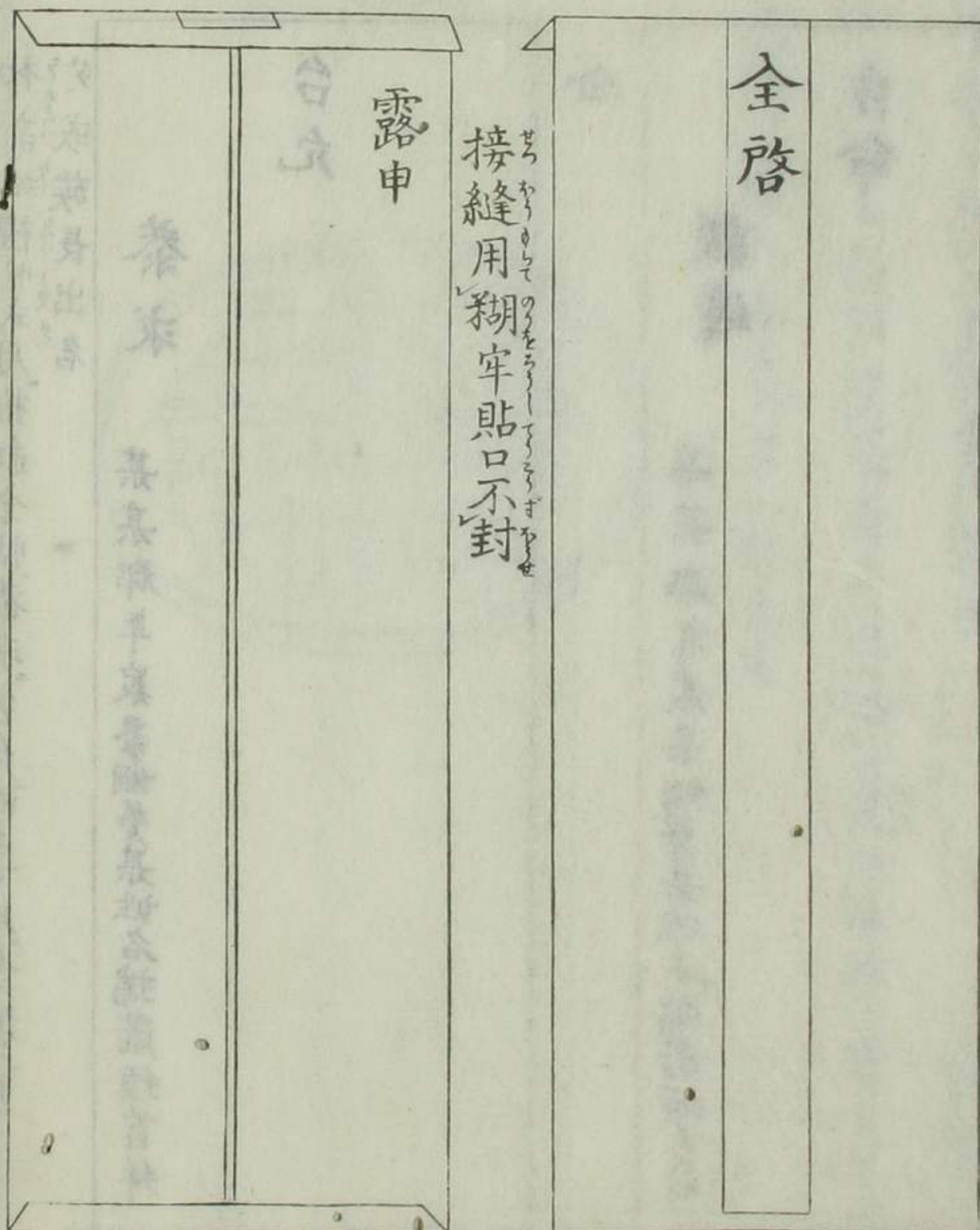
式_二面_一背_二筒_一封_二

禮帖封筒用大紅紙正面金簽寫全啓二字

全啓

接縫用糊牢貼口不封

露申



○

又數日過く吉日_二擇_一て送盤_二申_一

送盤とい信納の送る物
の事也一亦遊盒といふ

送る物の端物珠玉細

工物并戒指_二指_一ホ_二并_一戒指

多_二送_一る事を上_二并_一といふ

此時_二取_一結の

吉期_二を_一擇む女家_二も_一通_二は_一是_二を_一道日_二といふ

吉期_二を_一擇む女家_二も_一通_二は_一是_二を_一道日_二といふ

道日とい俗信みく日をふといふ
日取を定め女の方_二も_一通_二を_一申さる

吉期_二を_一擇む女家_二も_一通_二は_一是_二を_一道日_二といふ

日取を男の方より通したる時女の方みけつゝえあられ_二は_一並に用意す

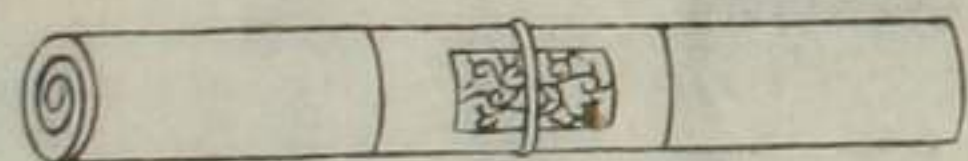
若故障等あはれ外_二も_一吉日_二擇_一て_二此_一由_二媒_一の方_二も_一相_二候_一申さる

此時_二取_一結の_二吉_一期_二を_一擇む女家_二も_一通_二は_一是_二を_一道日_二といふ

紉_二糸_一

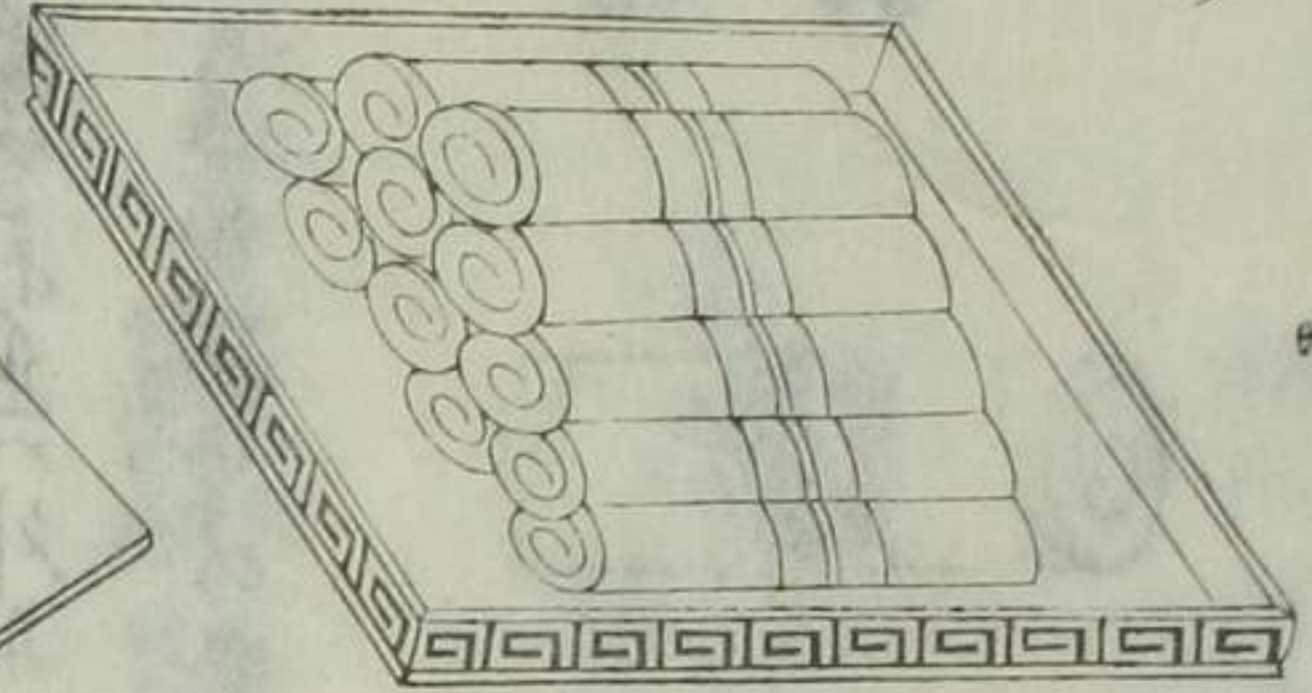


子_二綴_一

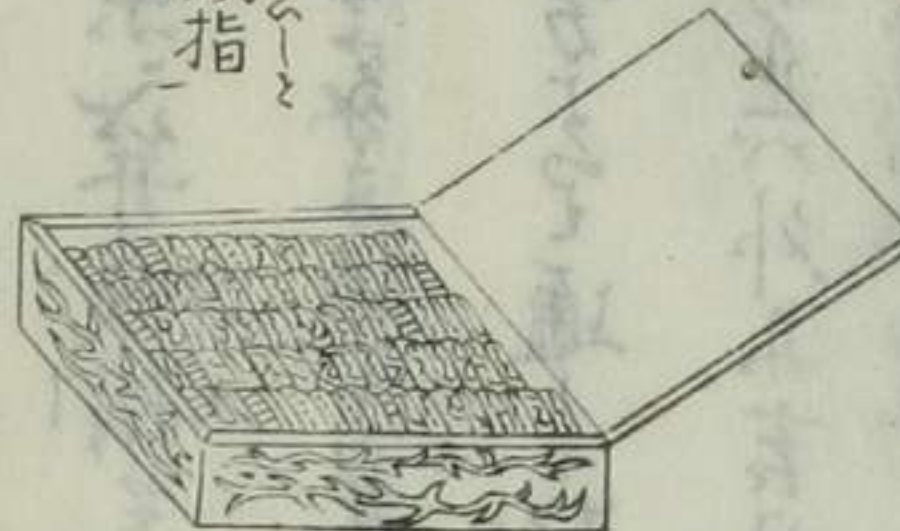


婚禮

絹紗



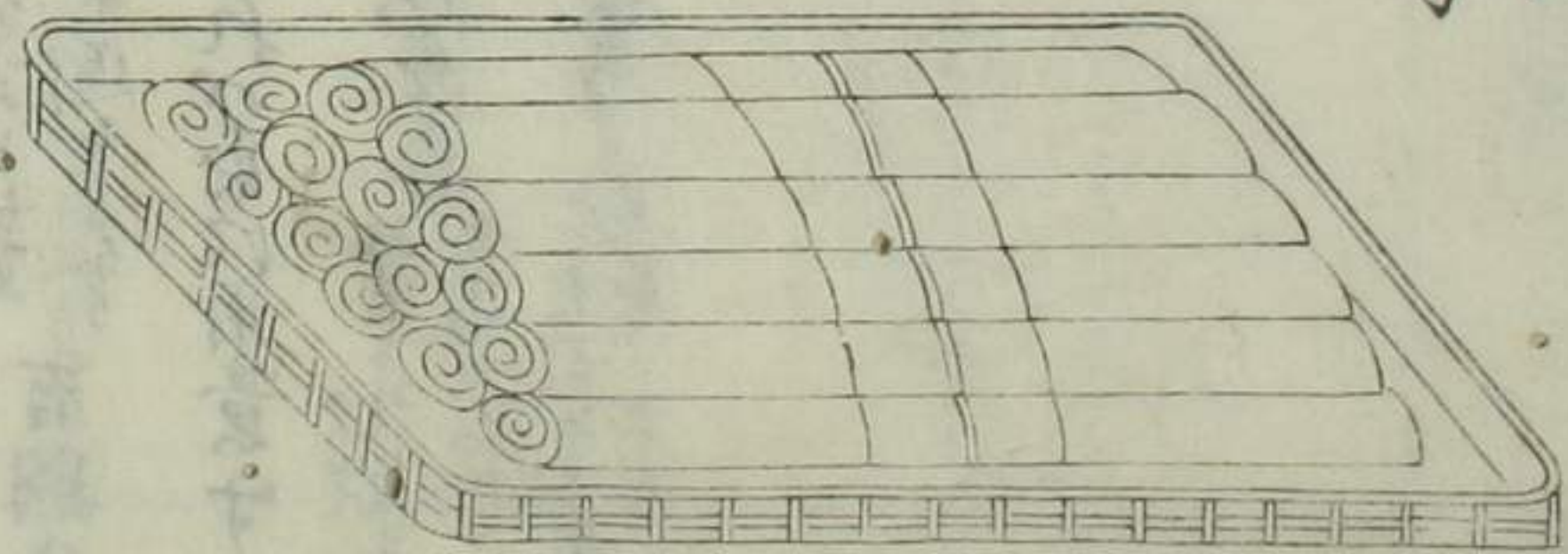
手釧
俗稱戒指



珠玉匣



緞子



○此時書簡目録を流し使を以て女の方みせ及又嫁成類を遺す事有

双方より流儀やして使の者み銀子或遺す也書簡父の名みせ及

おれ者伯叔兄の名みせ遺す ○右結納の只受取の後四

五日も経て女の方より毛又流し物五珠玉緞匹の類不同わり及物珠玉

の類男家より流し物五品と摸極あも同物おれ者み見せ及ぬ是を回

帖といふ 此時女の八字成送ふ ○双方の贈答を以て婚禮道具の

用意此女の方み諸及具の用意出きて男の方より通したる婚禮吉相の

三日程之れ粧奩を贈ふ ○粧奩の目録男の方み使の者持り男の

みく九次の者受取をれく取く付並使の者み流儀成を以嫁入道具ハ

約基やうゆかとのみへのせは道具を以て或兩人みく中擔ひみて人殺

多く持運を面目やして

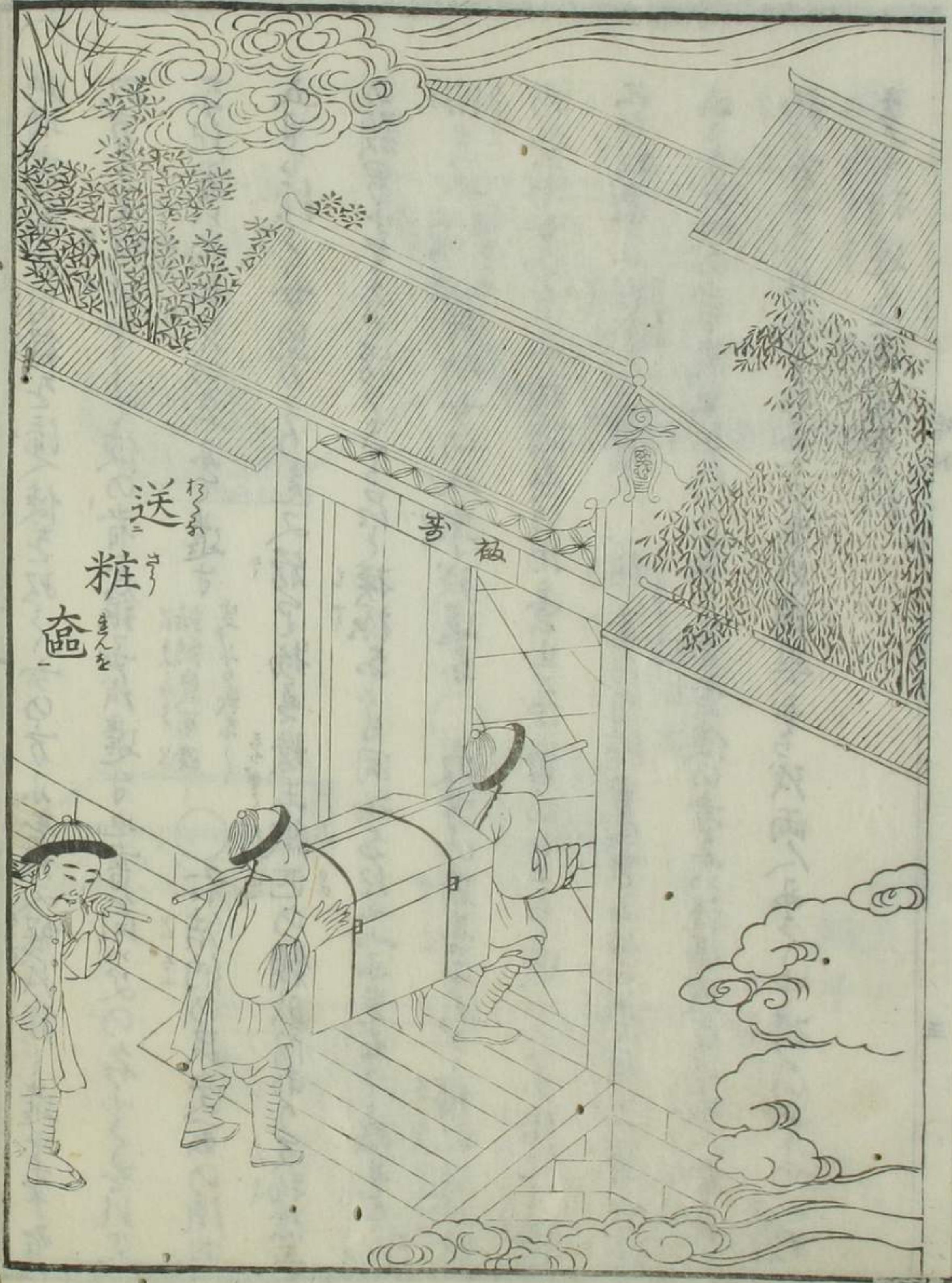
婚礼

五



婚禮

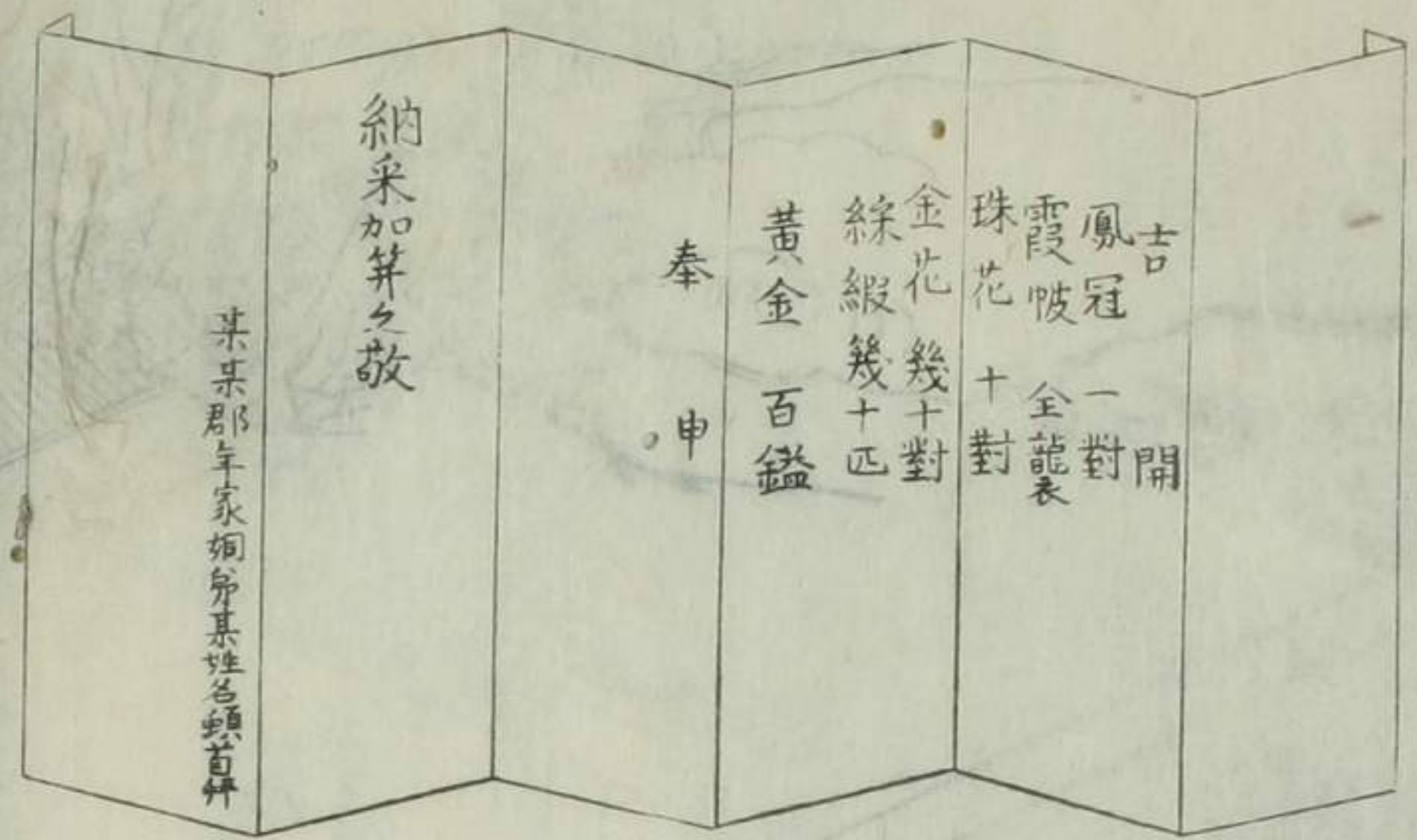
六



送
粧
奩

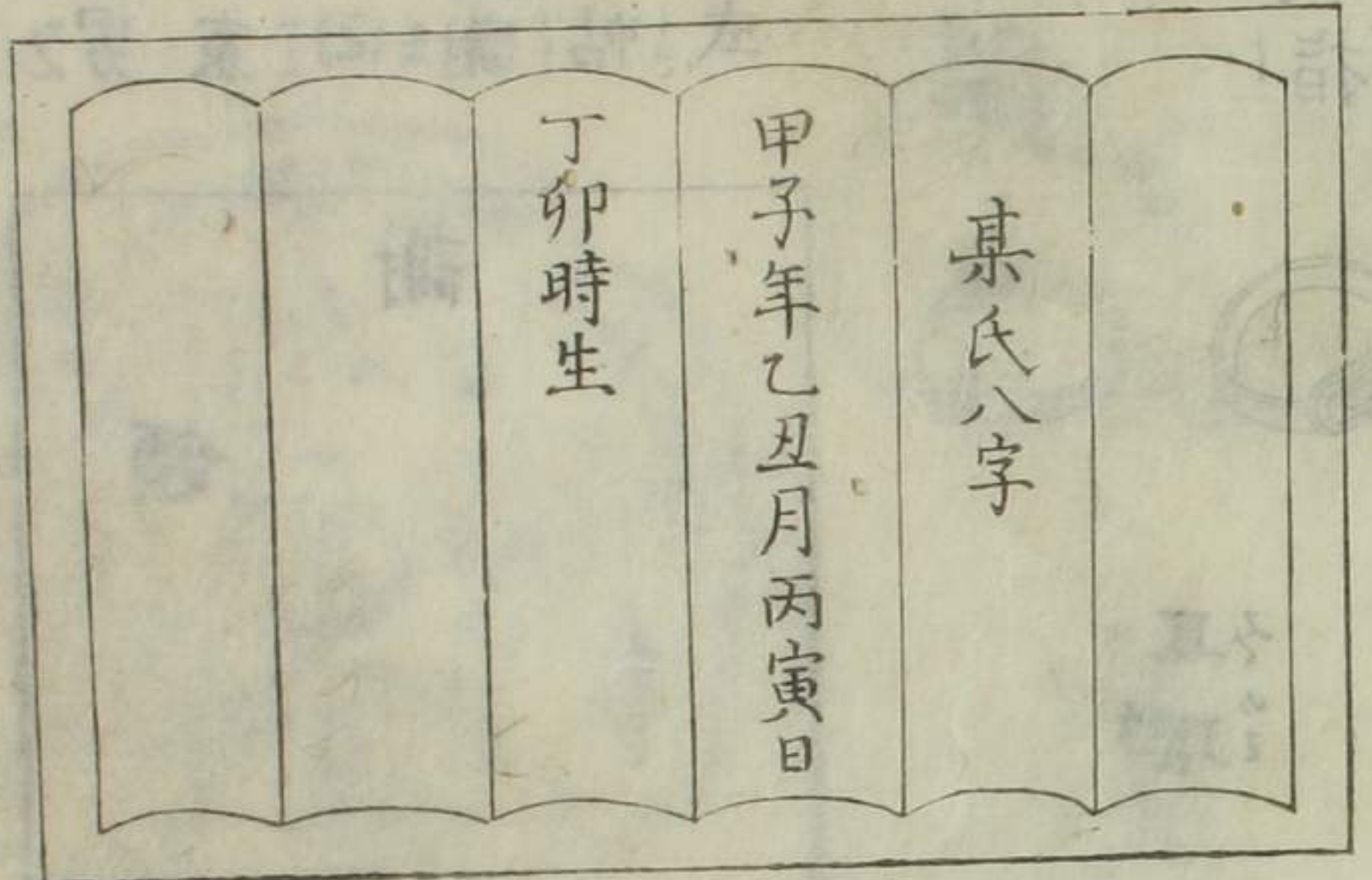
芳板

用梅紅全帖第二頁正面寫起每四行或六行不等納采加笄之敬六字用
 金簽寫頁數六頁為率故其物件多則每頁多寫少則少寫出名與帖式同



女家同帖式寫法

- 吉 朝冠 一品 開
- 袍套 全福
- 文房多寶 全副
- 京靴 成雙
- 出名與男家同



女家送粧奩帖式同前

眷生某姓名頭首拜

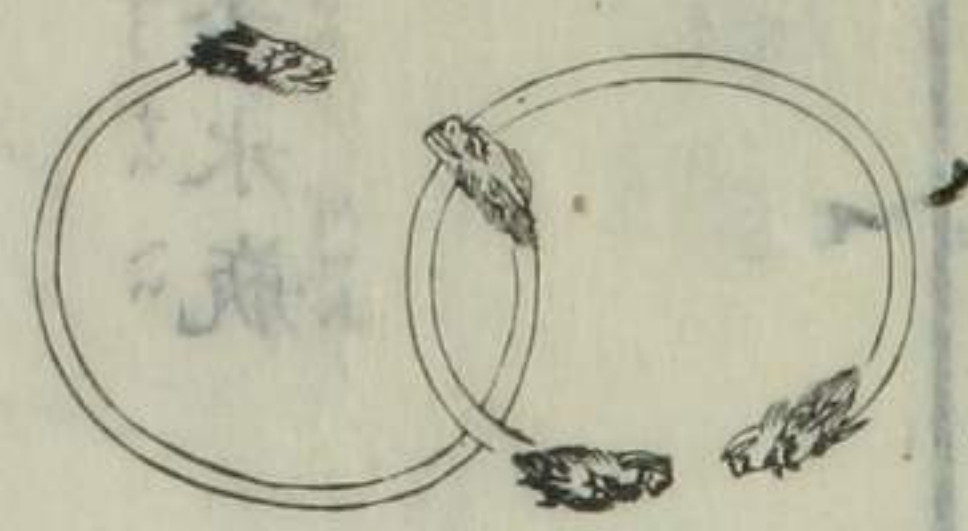
- 吉 梳粧臺 全副 開
- 圈椅 滿堂
- 立臺 成對
- 圓爐 成雙
- 衣箱 幾十對
- 子孫桶 千代
- 慶 餘

鏡子 背子

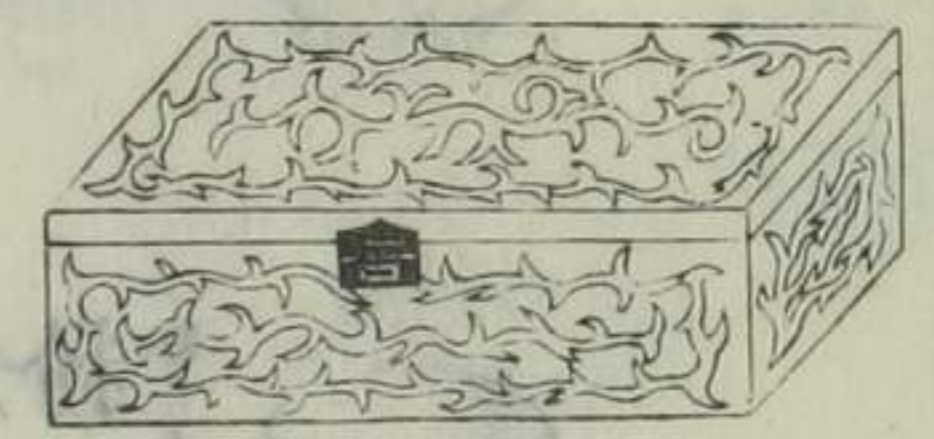


婚礼

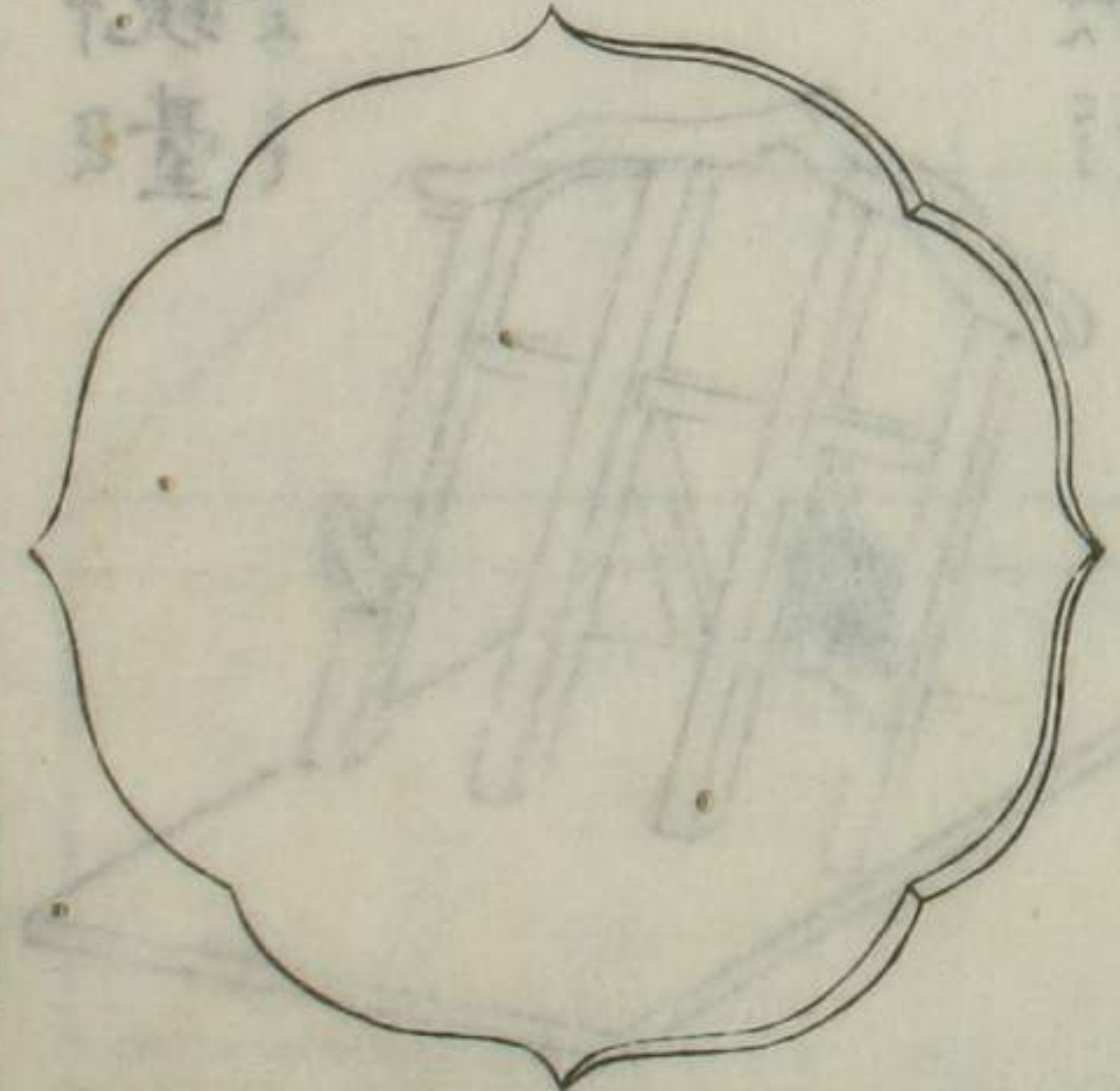
手鐲



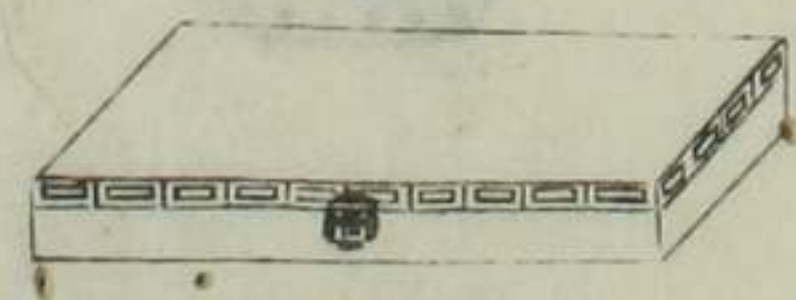
拜盒



鏡子 面鏡



針線匣



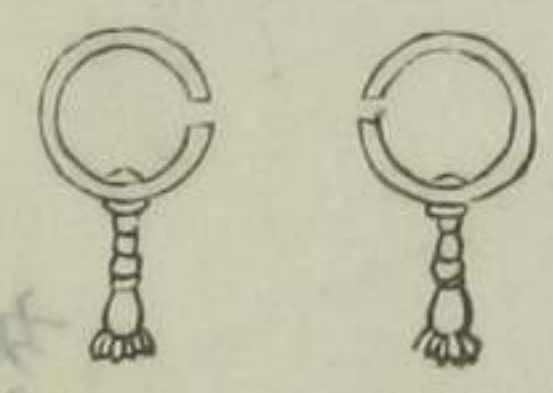
戒指



同心釧



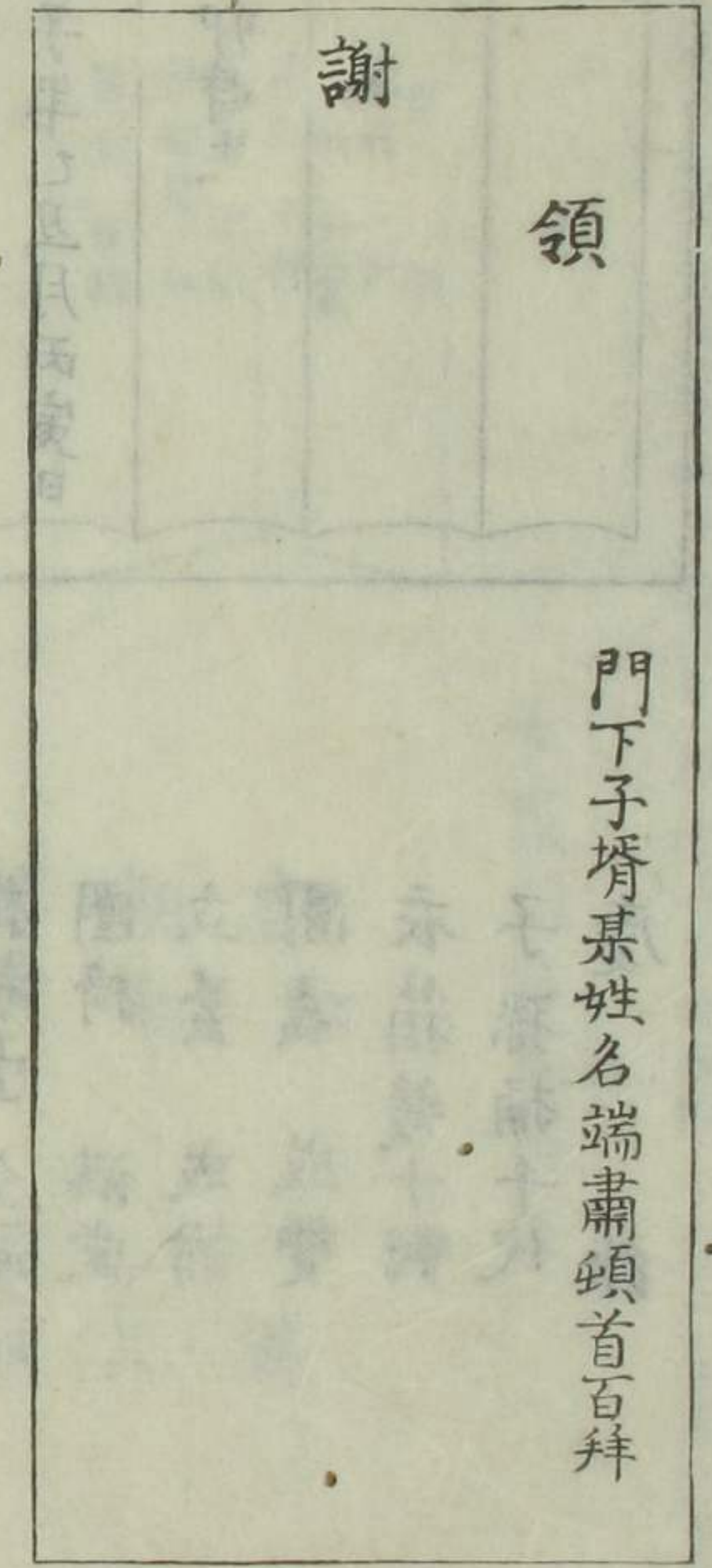
耳環



鈕鈎



男家 回謝帖式



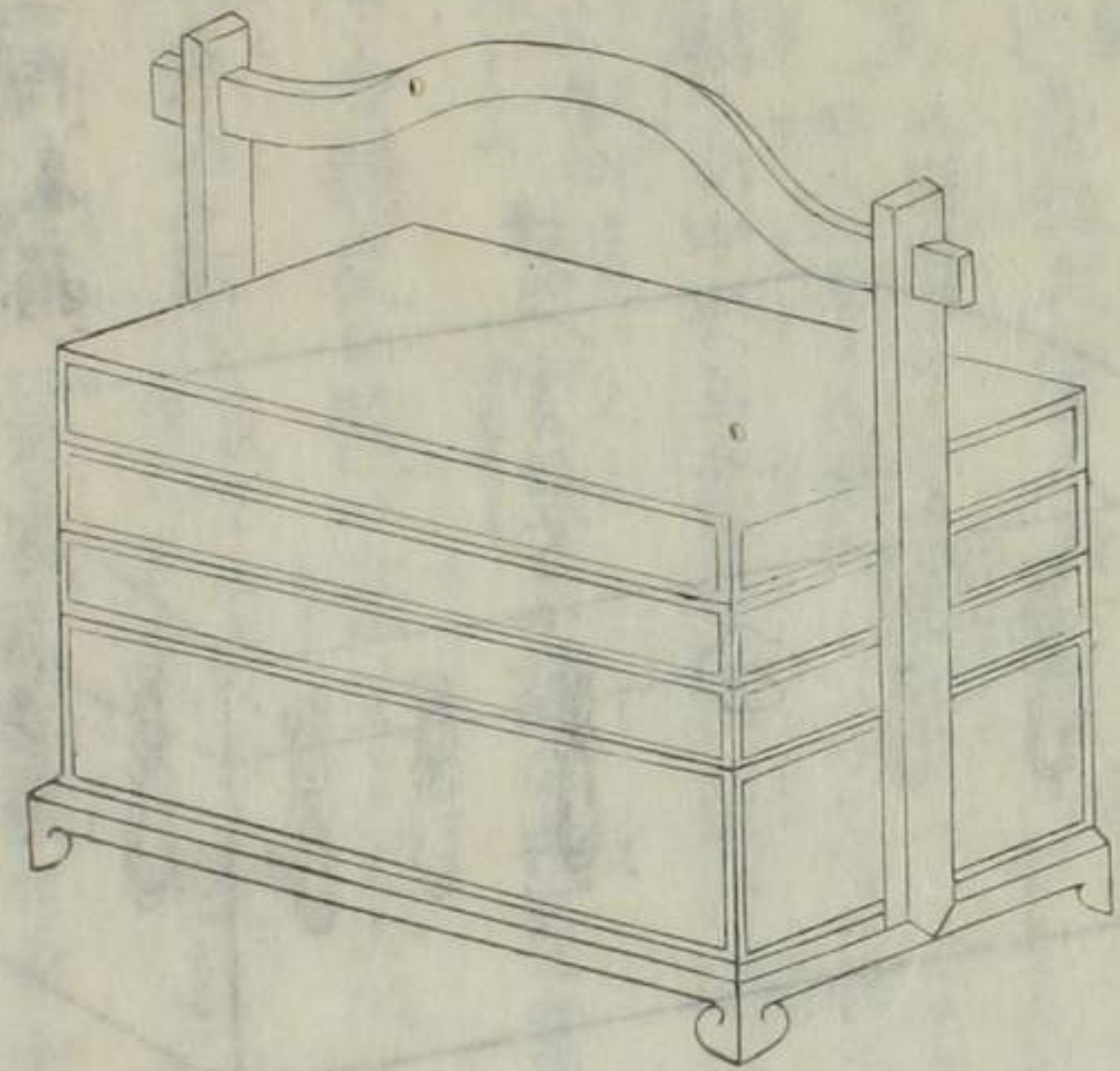
謝

領

領謝二字用金簽

門下子婿某姓名端肅頓首百拜

婚
礼

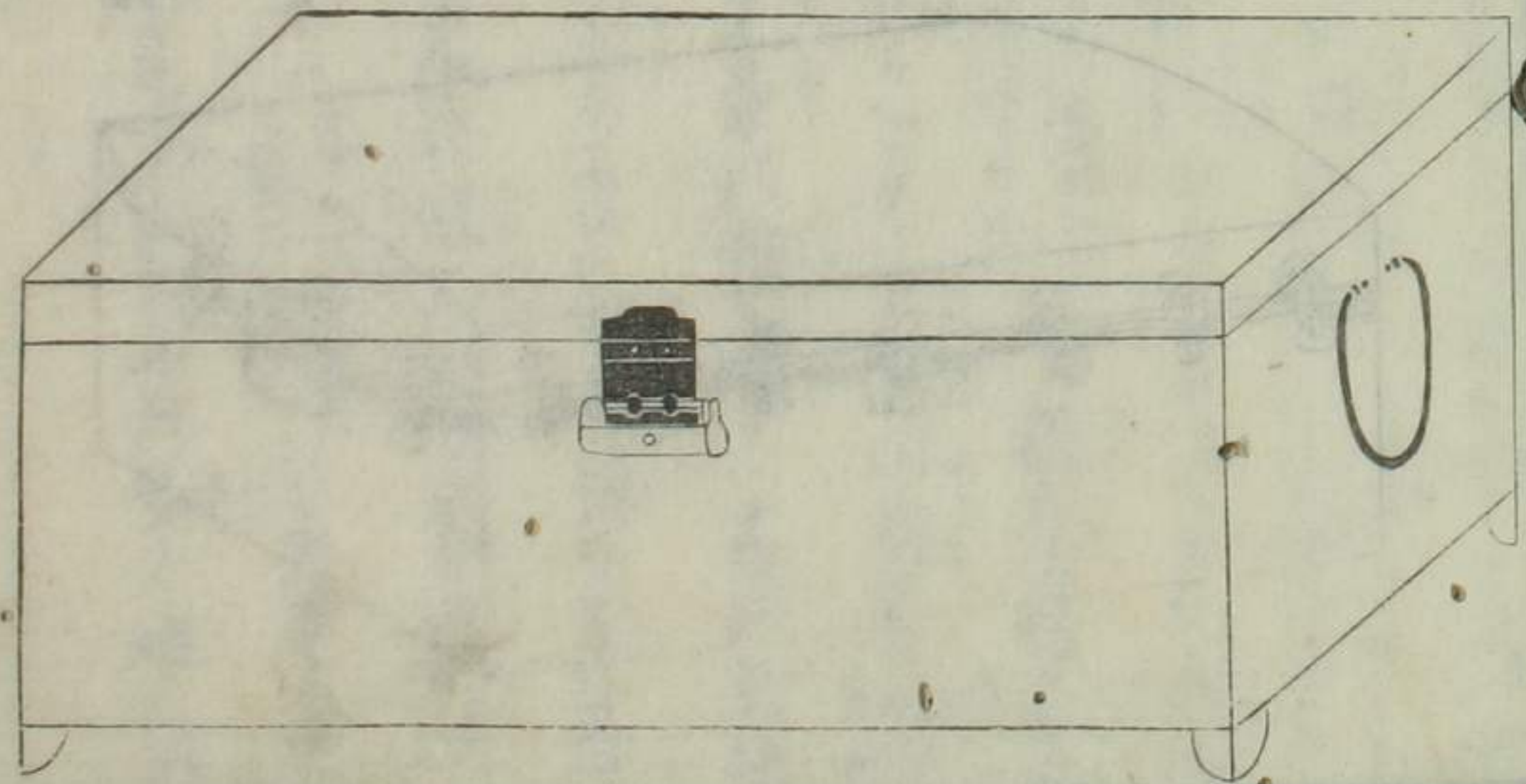


櫛
筒

衣

箱

箱
蓋
一
作

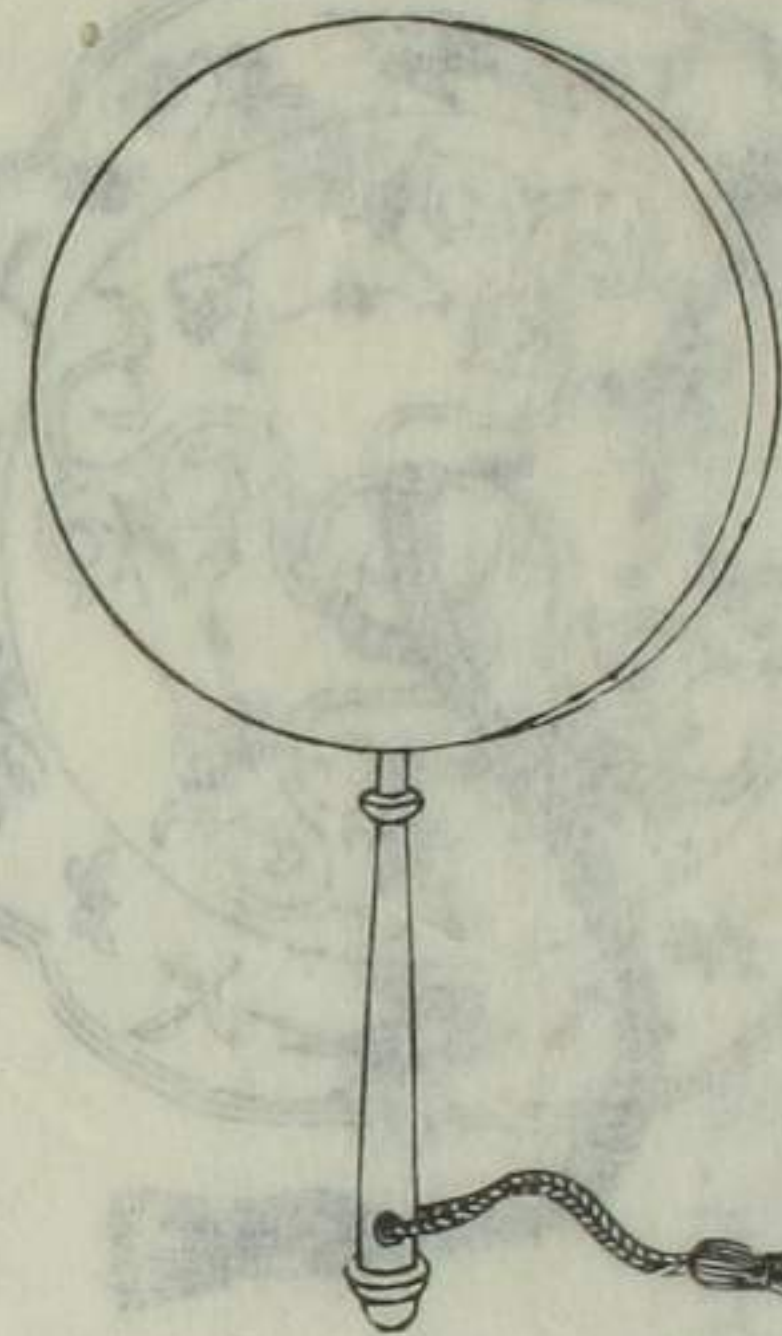


九

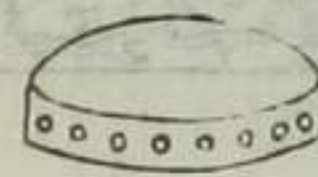
香
水
瓶



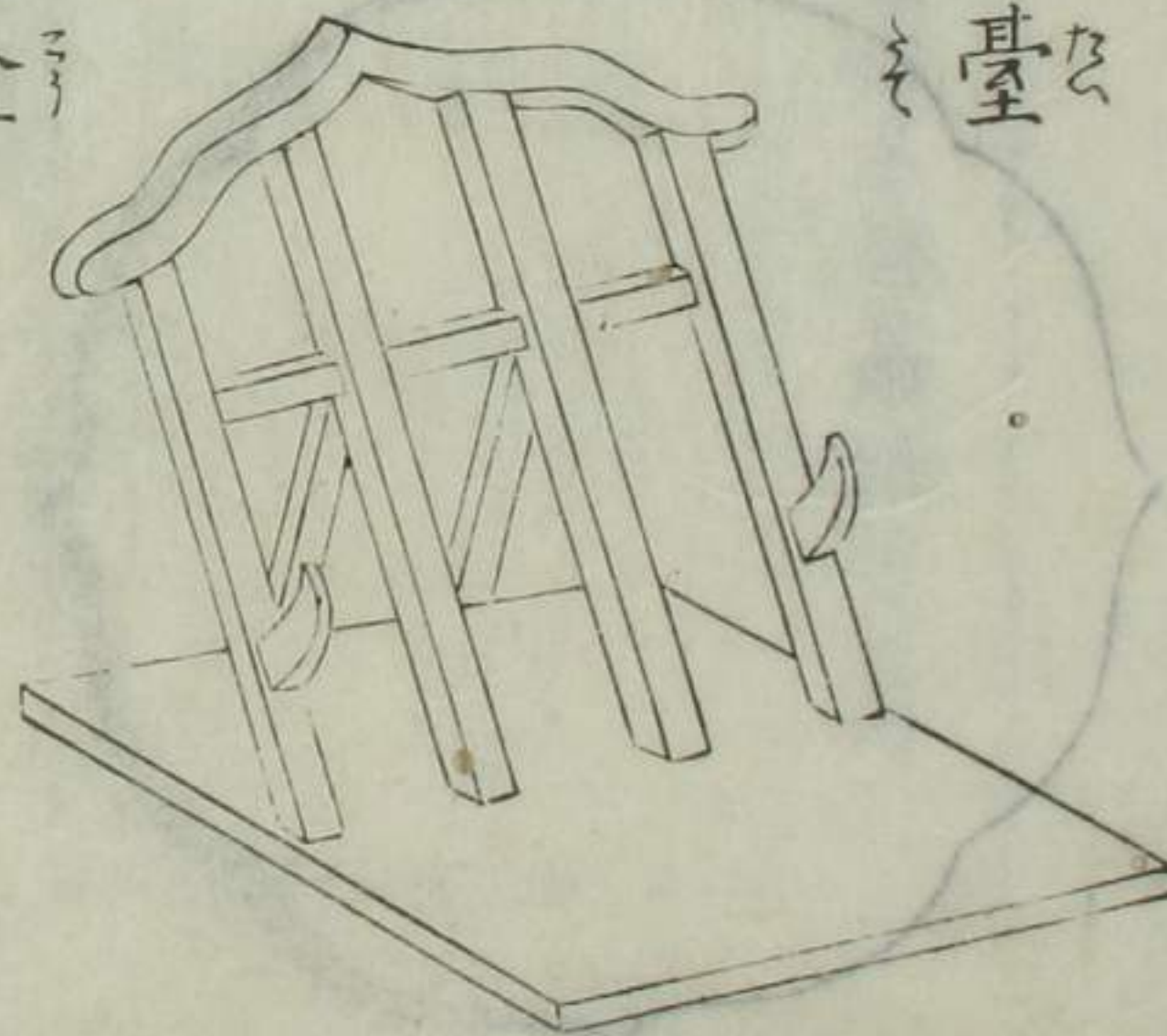
鏡



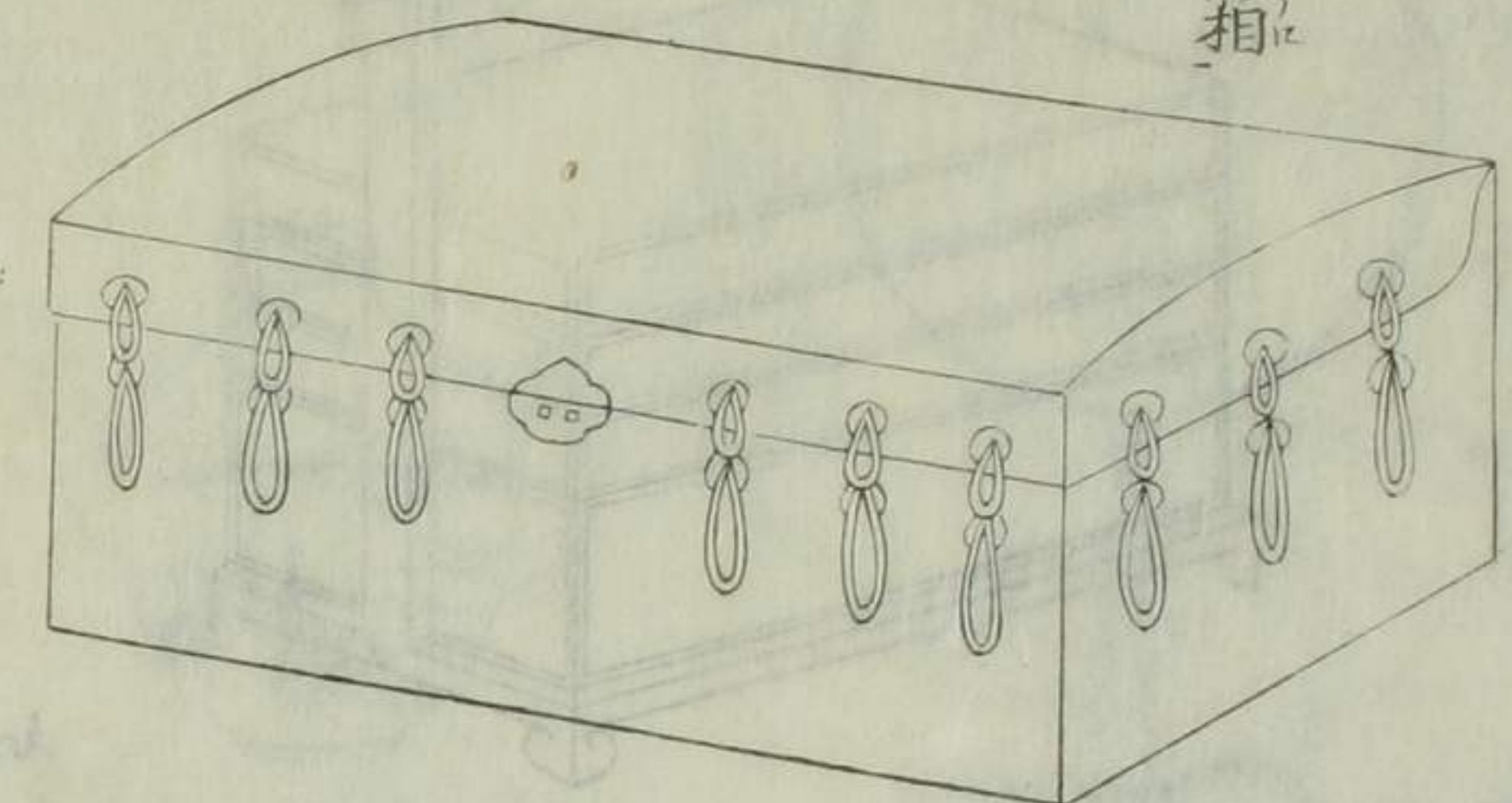
粉
盒



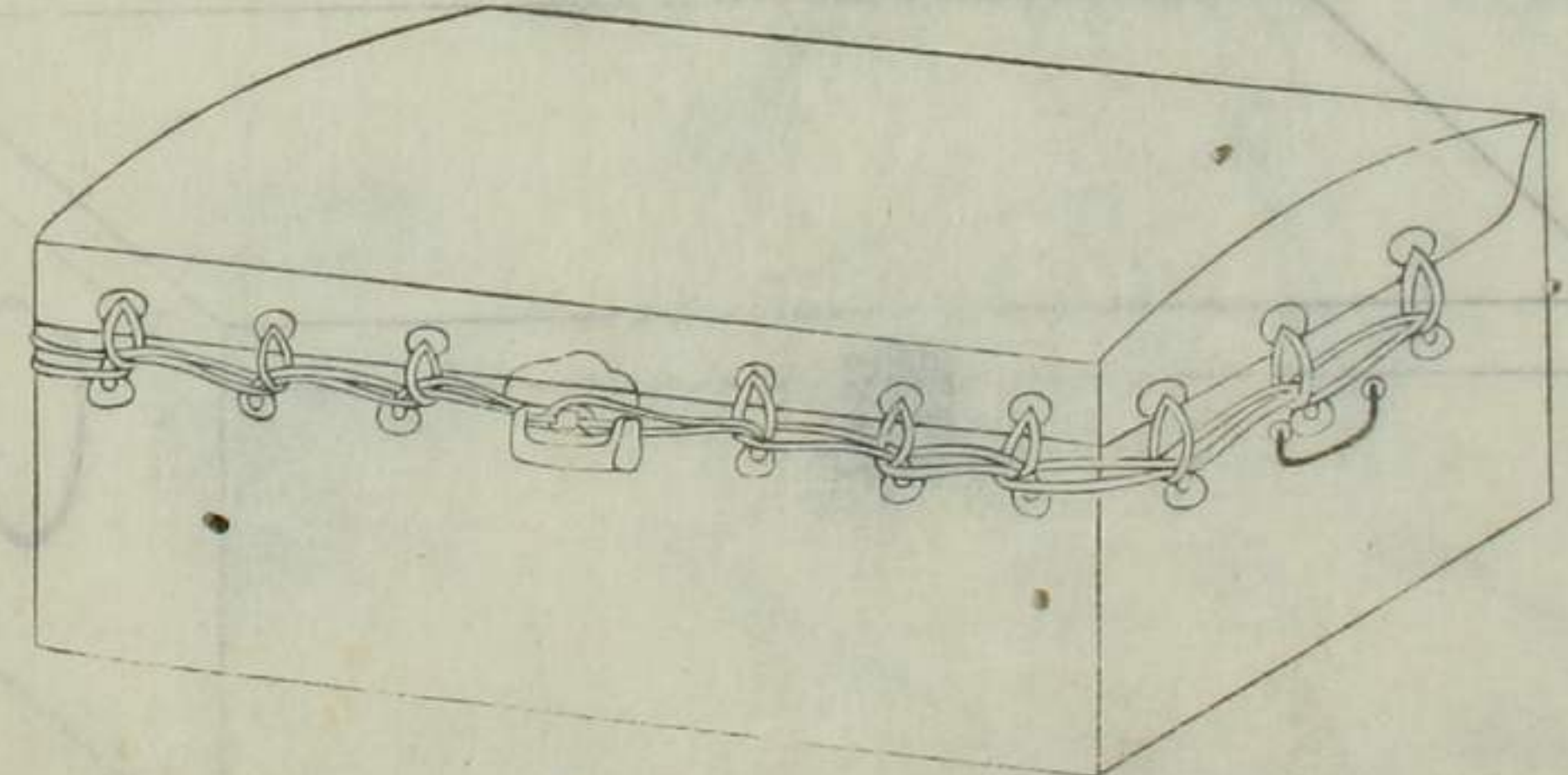
鏡
臺



皮箱
一作衣箱



全上



○**做親**の目七時分より**媒人**男の方みたり用意より同道よりとて婿

衣服をぬめ用意して婿の衣振常より三流子出ま**花轎**花轎ハ旗子縮綿をぬめく寄

用意を敷受**樂人**成つて樂人の法師者者の類ぬめく盲人女の方みゆくとて親迎

とて此時婿へゆくは媒人むりありまあり媒人も婿もかきさみもの婿親迎の時岳父

の廳上の中央に書置架設け婿の文藝を試えんとて文房四寶を筆硯

を文房四寶を敷受雲箋お詩の題を書き置け或は文章の題を出し書置けぬ

幸ふ詩文の題ハ岳父より出せ又女詩文も志者女より題を出すま

○**大戸の家**ハ家口十四五人以下媒人ありて男家の媒人の女家みたりす

女家の媒人の男家み面使せ中戸の家以下ハ家口六七人以下さふあてもな

しあられも始末の花遣みハ両家の媒人よりあつて花遣成りぬ媒人の

妻とあつて

婚禮

十



○婿の轎子女家の大門前子至るを見止む女家の奴僕婿より祝儀を
 求むん為門を閉くをりて寢る此時婿の下部より女家の下部へ
 祝儀を遣し門を開たむとへ門致むに婿の轎子門内へ
 通す此後儀家の貧富によりて
五十日百目二百目等かす ○此夜婿の方より女家より二度の書翰を以
 初度へ迎ふ轎子致すところ書翰二度目へ交度ありたりと云書翰
 三度目へ合承色の近致遣はるる書翰あり女の家半町程も之れを
 媒人の懐中より初度の書翰を出し拜匣み入止使の者不持せつ
 からせ女家より後得く主人門前近近ひみ物か

式帖道一第

迎

絲輿恭

某某年家系姻某某某名端肅頓首拜

男家迎娶三帖式用大紅全帖絲輿恭迎四字用金箋
父或族長出右

速粧二字用金箋

速 同前

粧

式帖道二第

式帖道三第

恭迎

合盃

恭迎合盃四字用金箋

○女家の少し手前めく媒人も婿も轎子より入りて門前まで至ると主人出む

○廳堂（一母外）案内にて請上坐と云く手紙措く挨拶以媒人も今日某喜

と會釈寸五人と目請坐と云く媒人手紙措く得罪と云く椅子

坐を婿の始終媒人の跡み引添く諸事媒人の指圖め位す

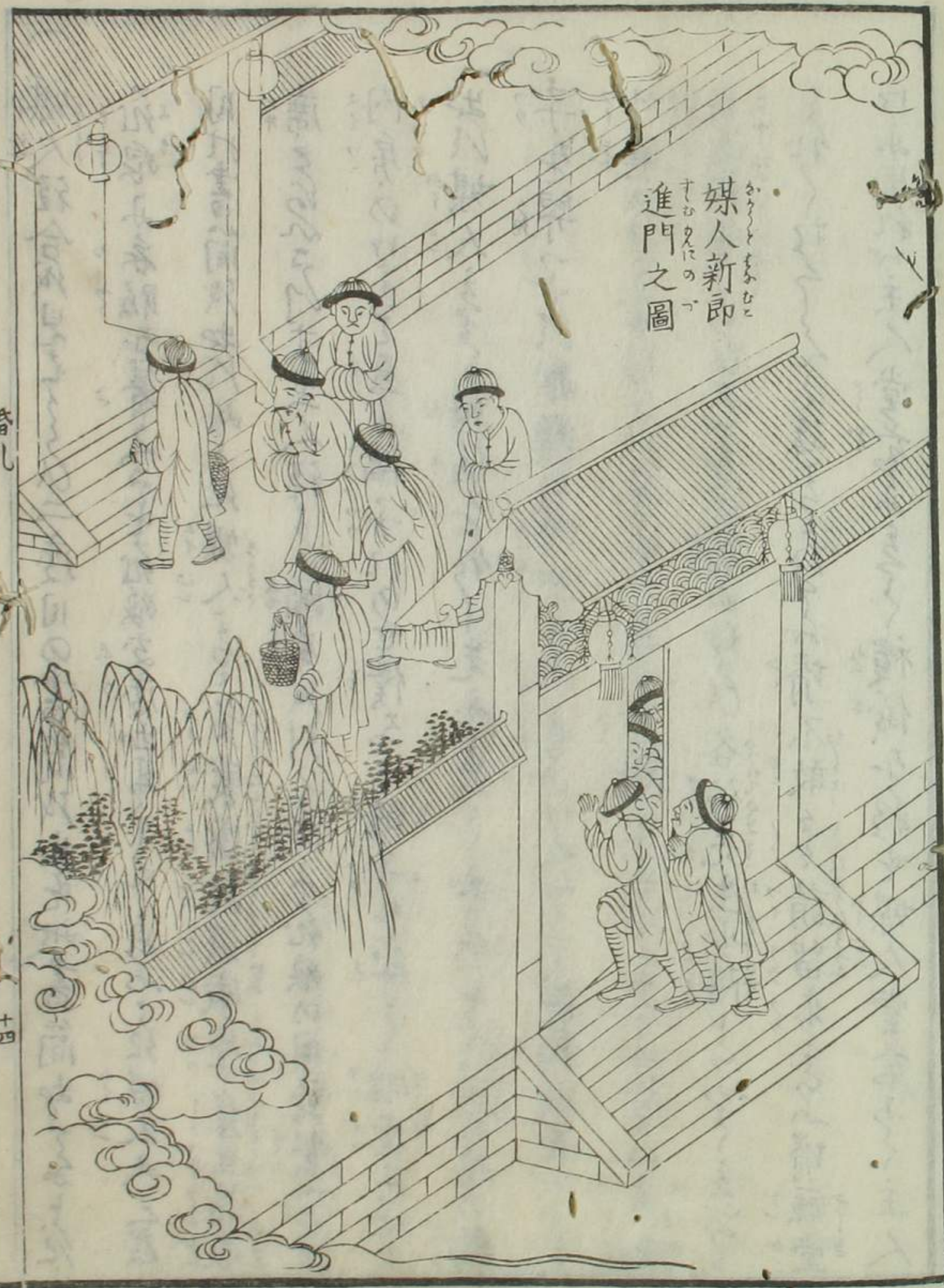
○花轎ハ新娘の内房（内房ハ女の居間也）口へ入る

婿礼

○主人自業成多々媒人進め今晩多勞且請拜茶と挨拶止む媒人
 椅子成多々業成を以て受取罪多謝と會釈してえのどく椅子
 小室へ茶代吞親類朋友など相伴の面々如く媒人おびひ今晩勞駕
 種勞玉成請阿と挨拶止む媒人まゝ又おびひ請阿恭喜々々
 互々おびひ挨拶止む逸く挨拶止むえのおどく媒人の椅子お坐し主
 人の内お入る相伴の親戚朋友をも椅子お坐せ共々お奴僕茶代持
 出く逸くお茶を進む茶畢して桂圓湯篇豆湯おびひ杏酪鶏豆
 湯の類一種又二種お畢く奴僕卓子を先媒人の茶お居
 せ其後お茶おひく卓子をまゝお主人お請々とあつてま
 せ止る上座へ酒瓶をもち出く媒人の茶此酒鍾お酒代料く媒人
 まゝ待罪と挨拶して酒鍾をいぬ卓子のうゑお主人まゝ

相伴の面々お酒代料く相伴のめんも裁き媒人おむらう請々と
 挨拶止む媒人猪は成おむらうのむ相伴の面々一同おのむ其れ主人
 上菜とてお僕菜を持出く卓子の上おね主人請菜とて媒人
 まゝ多謝とて相伴人箸成おむらう茶のお後き刺をいひけく
 媒人お請々とておむらう媒人相伴人お請先々々々て辯讓
 先一箸吃され皆々箸成おね一箸吃酒をのむ
 お茶代料くお茶代料くお茶代料くお茶代料くお茶代料く
 北式お酒寡酒おの類成つて一雙を成雙とてお席を成
 大抵お酒寡酒おの類成つて一雙を成雙とてお席を成
 席とておの類成つてお席成つてお席成つてお席成つて

増札



媒人新郎
進門之圖

婚札

十四



親迎

花轎

○媒人種合見せしむ二度目の書簡出せ世書簡出せり
 花娘小衣服を着せしむ花娘交度出せりと思ふは媒人又二度
 目書簡出せり此は媒人より多蒙盛設深感厚意且請成
 席をいさす主人程々酒席引く既し花娘の用意物出せり
 内房のいさす直し轎子にのせ僕を轎子を昇り廳堂小送り
 出は媒人より辯儀をい先みあつて出せしむは花娘の轎
 子を昇り親類の婦女ら内房のいさす親類朋友も
 外廳のいさすねね其のいさす方婿もいさす主人みむは多謝
 夫人錯愛といふ一座の客みむは各位先生少陪といふ
 これくはとんと疎まなご婿不敢々々請留歩といふ婿廳堂
 けみ出れば主人堂をいさす禮儀をいさす媒人堂をいさす主人

並み親類朋友杯に辭儀をい先みし門前めく轎子小のさ
 花娘の轎子と媒人の轎子昇りいさす疎みり行列をいさす
 花娘の轎子いさすいさす昇り出せりいさす事いさす又先祖四只
 四只いさすの店
 加府布政司の類
 紅燈 執事 一羽 鷺 鼓樂 旺相 紅黒帽 喝道
 花娘の轎子いさすいさす疎みり新郎 花婿と 轎子いさす
 ○男家より二丁程も前より媒人人を遣し嫁のいさすいさす

婚礼

七五十六

○男家門前より人を出し、並に花婿の来る候に、媒人の使來しに、並に内へ
ら内にも用意して、主人、媒人の通して、門限と知く、身を措く、媒人、轎
子より下りて、主人の衣、小まき、主人、勞駕と云、媒人、豈敢と云、主人、先か、並に
内へ、廳堂、み、主人、請上、坐と云、媒人、不敢、主人、再、請
坐と云、媒人、得罪と云、椅子、み、看守、此時、主人、婿内、み、其
向、み、新娘の轎子、來れ、傍娘、類、新娘を轎子より下、廳堂の、み、傍
娘等、両方、み、年、成、引、媒人の、次、み、主人、養娘等、傍み、付、流、養娘、花
婿の、衣、裳、下、に、披、風、袂、衣、と云、格、成、常、の、衣服、を、着、上、み、大、紅、の、圓、領、と云、
言、有、成、着、一、既、み、頭、面、覆、と云、紅、の、被、中、の、物、着、着、以、○媒人、主人、婿内、み、
婿を、伴、以、廳堂、み、出、來、み、花、娘、を、新、郎、み、相、見、せ、此、時、親、戚、の、内、の、幼
年の、者、又、い、奴、僕、の、内、み、二人、一對、の、婿、産、み、金、銀、み、て、色、く、の、茶、花、を、函

る、み、大、紅、の、紅、蠟、燭、を、立、主人、左右、み、並、み、持、出、て、新人、二人、の、前、み、坐、り、是、成
花、燭、と云、新、娘、婿、み、向、以、礼、儀、を、せ、れ、婿、答、礼、と云、椅子、み、座、守、新、娘、へ、椅子、
坐、せ、○新人、相、見、身、と云、主人、父母、廳堂、み、上、り、椅子、み、着、以、新人、二人、並、以、て
天地、を、拜、次、み、家、廟、を、拜、次、み、父母、を、拜、寸、身、と云、新人、二人、を、傍、娘、娘、も、
業、内、へ、て、房、中、み、入、此、時、母、母、へ、廳堂、を、立、内、廳、に、入、み、父、へ、媒人、并、以、み、親、戚、密
み、請、寬、と云、挨拶、して、内、廳、み、入、み、外、廳、の、客、あ、く、坐、定、と云、落、落、み、叔、僕
茶、を、持、出、く、媒人、み、先、次、み、相、伴、の、客、あ、く、坐、定、と云、茶、成、出、く、茶、終、と云、桂、圓
湯、扁、豆、湯、杏、酪、の、類、を、出、卓、子、を、出、酒、宴、を、始、主人、婿、媒人、の、石、置、を、取
酒、を、斟、主人、婿、に、酒、を、奉、敬、一、盃、種、々、費、心、多、勞、々、と云、挨拶、して、其、外、の、客、あ、く、
衆、位、相、煩、奉、陪、請、寬、暢、飲、と云、挨拶、して、酒、成、と云、○新娘、と、先、み、房、中、
み、入、婿、み、新、郎、改、り、入、來、れ、養、娘、と、相、公、請、坐、と云、新、郎、床、の、邊、
婿、

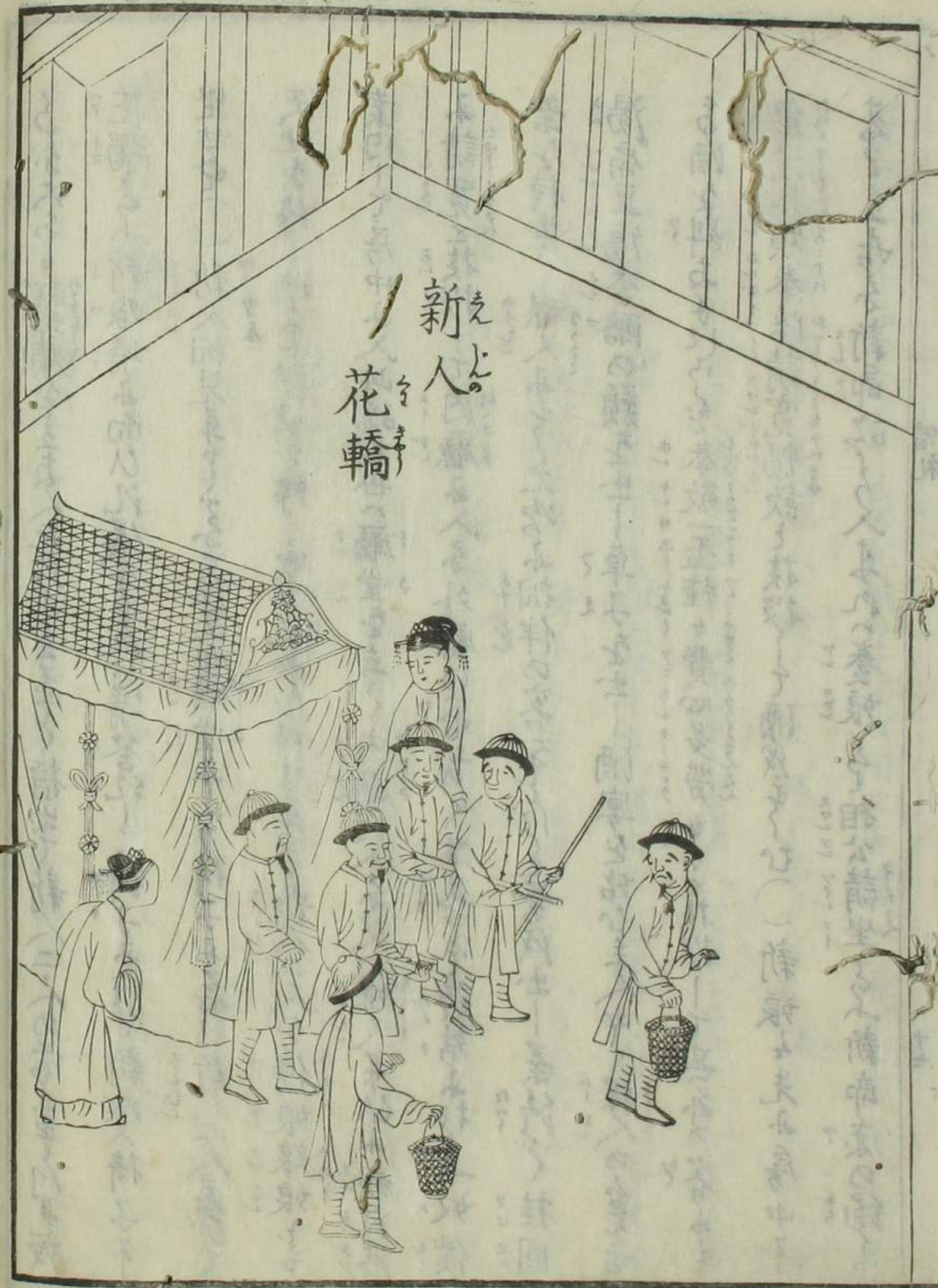
婚禮

女婦送出
内房之圖

婚禮



新人
花轎



腰を掛かせし傍娘新娘を伴ひ同床に坐り傍娘合盃盃を持出く二ッ
小刻く手にもち了髪等酒瓶の酒を注ぐ二の石を注ぐせもく香に
後合せく新人二人み一時み香い足合盃を合盃を合盃
合盃并て姑く花娘の頭面覆をさる圓領を脱せ天青色の
色やく男子の衣に振す幸能ら先祝也も天子より
類の婦女姉妹の顔を見よして若活くと盃事あり新娘と合活せ若活若活傍娘
養娘も合活次○外廳の媒人其外の客酒宴深更みつめて眞酔あり
管束 下部の内年よりさ 紙ゆく張ぬきにさくさく獅子を持出く廳堂のま
あに居る六衆客酒宴みさく争て獅子れをさる足路を履て後分取
みさく ○婿の外廳の客小陪坐せ天地廟拜して婿の臥房み入ふ羽之羽
の酒席小陪坐し其夜陪坐せ 酒宴羽之羽すてみおふ羽之日の樂人も盛ん

鼓も音はく花娘を外廳の上座み座せぬ笑也並に親類朋友等盃事し
さ音樂舞踏して共日れ夕るに卓子をさるとさる圓子を十六あつて
四のあはれ物小菓物山海の味を 圓十つづる花娘多々の房中み入く外廳
つぬきふち指差大盤あり み出で夜み入く傍娘と花娘は衣服改更せ寝房み入く此日の日み入
ては燭臺み蠟燭を點しつらぬくおれ夜み入く酒席をさる 此二日目也
婿二日目み入く花娘早くねて父母の居同みゆきと拜し之房中み入く婿も
さくねきさくさく度一父母を拜し房中み入く新人二人同卓み入く朝飯を吃
て此日より親類朋友都来道喜し親類朋友より慶賀貝此賜り物あり何れも
謝帖を修す也後の者み賞封をさる 婿の日はさるさる
婿儀満く三日目あり五日同程小婿の方より請帖をぬく外父外母を招
請ふ事あり先を進門より 請帖ハ父の銘をぬくハ入 此日酒宴をり小者

増礼



婚札

鼓樂

喝道

紅燈

執事

二十



親迎
歸路
行位

婚禮



吉期
鼓樂待客





新人拜
天地

婚禮

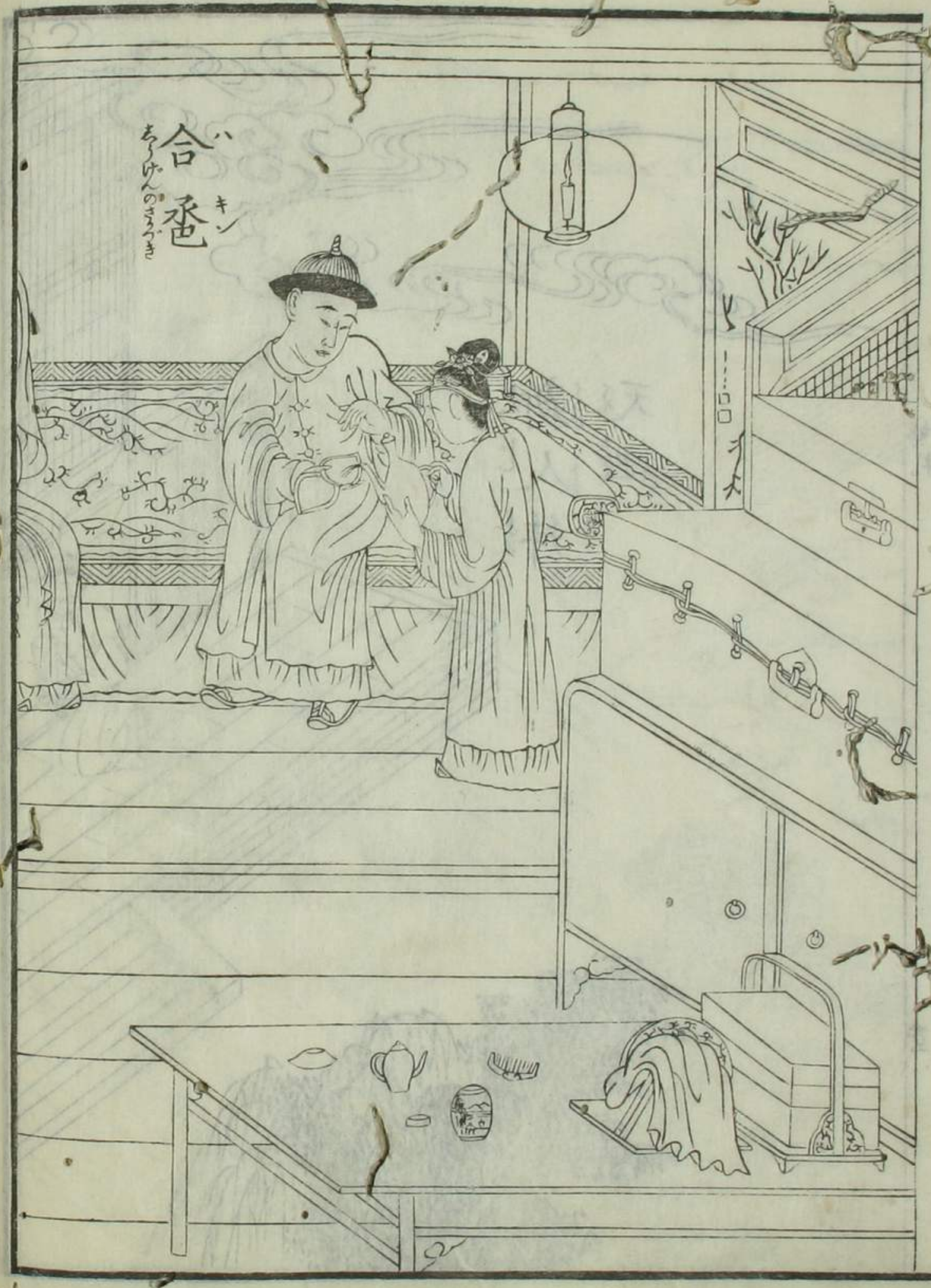
九二





増礼

北三



合番
ハ
キン
あつたのまき



親類朋友も兼肉して御良應す又楽人等をも呼ばく外父外母暮茶下を
 出宅にき路ある轎子を用ひ近道なれば歩行は外母に近道ありとも轎子を
 用ひ花娘の兄弟姉妹と打連く婿のく一一同ふふふ女の轎子をのりしゆ
 ○婿の門前も下都の者うか以外父外母此れも城内もあつて主人並り
 婿も廳堂の口は門限を出ひひを掛る主人も敢勞移玉を
 客堂敢て主人兼肉して廳上も客堂客とて女を養娘の類
 如く廳上もて迎へあつて互に挨拶を共向ふ養娘の類花娘を伴ひゆく堂
 客も挨拶して内廳も伴ひゆく ○主人も外父小舅も挨拶して椅子に
 坐せし婿の下座のふに身を掛る相
 内廳のり花娘の兄弟姉妹も卓子を出し餐後す相伴ふ
 婿の姉妹も兄弟姉妹も女号如く陪坐す如く外母も酒を勸む

婚礼

酒宴源更おた客をも挨拶を止ま主人も程合を見合々席を納

○進門をみく救日して舅れく婿を招請す事なり此時新娘も伴

ひ新を回門とふ此方の里初めきま ○婿舅方門み入ると舅父廳堂

口み出ひひ案内て婿廳堂も下座の如くみを扱く扱ふ主人請坐

とて婿辭讓して不敢と答て坐せ居主人強く請坐々々我も要坐

此婿婿得罪とふ主人も主席み坐せ婿も坐し親戚朋友も出さ

婿み對面を婿とて逸く辭讓して請坐々々とい皆一同婿婿に坐す

○花娘ハ轎子に納り内廳口を歸さむ轎子より入りて養娘も自海

多廳み入る ○内廳み嫁の母をけ免姉妹姑の類までと相伴して婿

餐應に父を折く入りて酒を初む外廳の酒宴事共内廳も見合せて

酒宴を収む婿も主人も挨拶して廳をみ其の内廳も婿も

姉妹も辭儀して外廳み出さる外廳口より轎子に乗り養娘も付

そひて門を出入 ○婚姻の後一月程も婿親里み帰す事なり

此時人事として只贈物あり菓物時新の物或は火腿の類等 親里も一月程も逗留

迎ふとして婿み此れ舅の方よりもねらり物も婿をかくす是古の歸寧の遣り

○舅の方より娘み逢ふ此時ハ奴僕を以て中遣せハ婿も公姑み

かひ其の美み伺ひ候日みまゝとてそと目取をいれ先多実母

の方み返来して其日にありて公姑夫まみ候をいれ親親朋

友も花娘被招請す事なり 翌年の四月々あると婿被あとの

ばあにす移り態も嫁をいれゆ事ハあ

清俗紀聞卷之八

紙獅子

